

# クロスロード

5

令和版

特集

## 隊員活動の トラブル脱出法

活動期～開花期編



2 子どもたちに伝えたいSDGs —世界の学校

3 ■Contents ■索引

4 JICA Volunteers' Reports

特集

6 令和版  
隊員活動のトラブル脱出法

活動期～開花期編

14 派遣国の横顔 東ティモール  
～知っていますか? 派遣地域の歴史とこれから

20 専門家に聞きました!  
失敗に学ぶ ～現地で役立つ人間関係のコツ

22 この職種の先輩隊員に注目! ～現場で見つけた仕事図鑑

24 ひきつけるアイデアを共有  
みんなの教材づくり&アクティビティ

26 先輩隊員のシューカツ記

28 派遣から始まる未来  
進学、非営利団体入職や起業の道を選んだ先輩隊員

30 待ってます、あなたを! ～各界からのエール

31 あの日、地球の、あの場所で。

32 JICA海外協力隊派遣現況

33 INFORMATION ～JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ～

34 隊員めし 現地で作った日本食、日本で作る現地めし

36 ウチのこだわり —OB・OGショップ 海外編



## 表紙よせて

任地・コトノー漁港のお母さんたちの働き方改善と子どもたちの安全確保、幼児教育の必要性を感じ、託児所を立ち上げました。ベナンの言葉で「チャ」は、「共に、一緒に」を意味し、拍手を打って「チャ」を願う文化があります。共に楽しく成長できますように、子どもたちと一緒に、「チャ!!」。古田拓志さん(ベナン/コミュニティ開発/2018年度2次隊・大阪府出身)

国別索引	掲載ページ
インドネシア	7
ウガンダ	26
エジプト	2
スリランカ	7
ドミニカ共和国	5
タイ	34
中華人民共和国	36
ニジェール	26
ネパール	7
パナマ	21, 24
パラグアイ	4
東ティモール	16, 17, 18
ブータン	7
ブラジル	7
ベナン	1
ボツワナ	7
ポリビア	31
ホンジュラス	7
マラウイ	28
モザンビーク	22
南アフリカ共和国	24
ミャンマー	22

職種別索引	掲載ページ
コミュニティ開発	1, 17
村落開発普及員	7
コンピュータ技術	7, 18
電話線路	7
野菜	4
きのこ	7
林業森林保全	7
理数科教師	24
青少年活動	22
環境教育	2, 7
日本語教師	36
日系日本語学校教師	7
数学教育	24
写真	16
医師	28
看護師	26
理学療法士	31
栄養士	34
感染症対策	21
養護	5

出身都道府県別索引	掲載ページ
岩手県	31
埼玉県	18, 22
千葉県	22
東京都	2, 4, 17, 21
長野県	26
石川県	5
岐阜県	7
大阪府	1
兵庫県	7
山口県	24
徳島県	28
福岡県	34, 36
長崎県	7
熊本県	16
鹿児島県	7

【凡例】  
JICA海外協力隊の隊員(経験者を含む)については、次のように表記しています。

国際協子さん(ケニア/環境教育/2019年度1次隊)			
氏名	派遣国	職種	隊次

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。

『クロスロード』(通常号)は、JICA海外協力隊が活動・生活を円滑に行うための実践的な情報、および帰国後の進路開拓や社会還元をする際の情報を提供する雑誌で、年に10回発行しています。

編集・発行:  
独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局



手作りのゴミ箱「パフパクくん」にゴミを食べさせる諏訪さん(写真左下)。本誌P33に掲載のYouTube・JICA-Net Libraryや、ブログ「しゅわわの環境教育」(右記QRコード)で環境教育の教材作りを共有しています。



子どもたちに  
伝えたいSDGs

世界の学校

## エジプトの小中学校で紙芝居などの手作り教材を活用した環境教育を行いました

す お ま さ か ず  
諏訪正和さん(エジプト/環境教育/2015年度2次隊・東京都出身)

ピラミッド、ナイル川などの観光資源に恵まれた国、エジプトの環境庁に配属され、主に公立の小中学校で環境教育を行いました。首都カイロで1年間、海沿いの町ハルガダで1年間活動しました。どちらもリゾート地として知られる都市でしたが、その実情は大気汚染、水質汚染、大量の投棄ゴミなどの環境問題を抱えていました。身の回りの環境問題について理解を深めてもらうと各地の小中学校を訪問し、紙芝居などの手作り教材を用いた授業を行いました。学校が休みのときは屋外で、青空環境教室を開きました。

エジプトの学校は6・3・3制で日本と同じです。小学校の高学年は7時45分から13時40分まで8時間の授業で、その間の休憩は11時頃に15分間だけです。お弁当や給食の習慣がないので、みんなお菓子を持参して食べていました。学校では9教科を教えることになっていますが、大学入試でテストの点数が重視されるため、国英数のみ教える学校が多いように感じました。イスラム教のコーランを覚える授業もありました。休みが長く、夏休みは4月9月末まで約半年もありました。

環境教育の授業は座学ばかりで堅くならないよう心がけ、正解不正解にこだわり過ぎず、自分のアタマで考えてもらうように務めました。2年間で約70回のワークショップを行い、関わった子どもたちは延べ3000人になります。環境教育が机上の空論にならないよう、具体的に何をすべきかそれぞれに発表してもらったところ、ポイ捨てをしないよう心がける子どもが増えていきました。子どもたちが主体的に考えて行動に移せることが、環境を良くしていくことにつながると思っています。

from Japan



## 子ども、高齢者、障害者も“ごちゃまぜ” “生涯”協力隊としてのまちづくり

おお やりようせい 雄谷良成さん (ドミニカ共和国/養護/1986年度2次隊・石川県出身)

輪島KABULET(カブレット)は、石川県輪島市の中心部に点在する空き家・空き地を再利用したプロジェクトです。温泉、食事処、放課後等デイサービスなどが入る拠点施設を中心に、エリア全体で地域住民と高齢者・障害者が交わる「ごちゃまぜ」のコミュニティづくりを推進しています。障害者福祉だけでなく、地域経済にも大きく貢献していることが評価され、令和3年度、ハリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で内閣総理大臣表彰を受賞しました。青年海外協力隊の経験者で組織された「青年海外協力協会(JOCA)のメンバーたちも家族ぐるみで移住し、それぞれの経験やノウハウを生かしてまちづくりに参加してくれています。

ほかにも、石川県小松市野田町では、廃寺となっていた西園寺を複合型地域コミュニティ施設「三草二木 西園寺」として再生しました。西園寺がにぎわうにつれて野田町の人口も増え、2008年に55世帯だったのが16年には72世帯になりました。同県金沢市につくった「Share金沢」は、約1万1000坪の敷地に、障害児入居施設、高齢者向け住宅、学生向け住宅などをエリア分けせずに配置し、高齢者、大学生、障害者、地域住民が

共に支え合って暮らすコミュニティです。生涯活躍のまち(日本版CCR)の成功モデルとしても注目されています。

このような「ごちゃまぜ」をコンセプトにしたまちづくりの原点は、1986年に青年海外協力隊として赴任したドミニカ共和国にあります。私は障害者教育の教員を育てる指導者として4年弱活動しましたが、当時のドミニカは経済レベルが低く、社会保障の仕組みも十分機能していませんでした。しかし、障害の有無にかかわらず多世代が助け合って暮らす幸福は圧倒的でした。自分が教えることよりも、現地の人たちが学ぶことのほうが多くありました。

多様な人が集まれば問題は起こり、対応に苦慮することもあります。大切なのは問題をなくすことではなく、地域みんなで解決方法を考えていくこと。私たちは黒字に徹して手出しや口出しをせず、住民主体で問題解決に取り組みるようにしています。多様な人々が交流するから、包容力と寛容性が育まれ、誰も排除されないから、「私もここにいいんだ」と思える。途上国での経験を日本国内で生かす「生涯協力隊」として、多様な人がいるからこそ世の中は面白いのだということを、これからも活動を通して示



1 漆の里・生涯活躍のまちづくりプロジェクト 輪島の人たちと一緒に、街の歴史や文化を新しい世代に受け継いでいく「人」を主役にしたまちづくりを目指す  
2 築70年余りの町家をリノベーションしたつづろぎのゲストハウス「うめのや」。漆や白しっくいなどを生かし、宿泊者を癒やす落ち着いた空間となっている



していきたいと思っています。

from Japan



## 自分の畑から アンドレス原産作物の魅力を伝えていきたい

ひだかけんぞう 日高憲三さん (パラグアイ/野菜/1989年度1次隊・東京都出身)

2021年春に長野県八ヶ岳山麓で農業を始めて、2年目を迎えました。都内の大学でスペイン語の非常勤講師を務めながら、コロナ禍で授業がオンライン中心になったのを機に半移住し、現在、東京と長野の二拠点生活を送っています。

栽培しているのは、豊富な栄養素を含み、アンチエイジングによいとされるインカベリー(別名・食用ホオズキ)、スーパーフードのキヌアやアマランサス、トウガラシ、ジャガイモ、ダイアなど、中南米に由来する作物が中心です。農作業では自転車をフル活用しながら、栽培から出荷まですべて一人で行っています。おかげで足腰、心肺機能が鍛えられ、今や若者にも負けない体力があると自負しています。

畑を始めるに至った経緯は、協力隊にあります。もともと中南米が好きで、大学ではスペイン語を専攻、卒業後は協力隊に参加する夢をかなえるべく、1年間、八ヶ岳中央農業実践大学で学びました。派遣されたパラグアイの農村には電気もガスもなく、現地の人たちは井戸から水をくんでいました。モノもお金も十分とはいえない生活の中で、作物を作り、助け合い、楽しく心豊かに暮らす人々から多くのことを学びました。そして、それが私の原点にもなっています。

帰国してからは大学院で国際開発学を学び、修了後はスペイン語教育に携わりながら、中南米の農・食文化の魅力伝える活動も行ってきました。その一つがキヌアです。キヌアは、アンデス地方で数千年も昔から栽培されてきた作物で、人間が必要とする必須アミノ酸をすべてバランスよく含み栄養価も高く、「母なる穀物」と呼ばれてきました。環境への適応性が高く、寒冷地や乾燥地でも育つことから、国連は世界の飢餓、栄養不良、貧困の根絶のために重要な役割を果たすことができると期待し、2013年を「国際キヌア年」に決めました。ところが、これに伴ってキヌアが世界的なブームになり、国際価格も上昇、日本でも高級食材になってしまいました。そこで、日本で気軽にキヌアを食べられる環境をつくるべく、「日本キヌア協会」を立ち上げ、その普及、国内の生産者育成、キヌアを通じた地域おこしや国際交流に取り組んできました。

具体的には、原産地と気候が似ている北海道や長野県の自治体に働きかけて栽培を普及したり、アンデス文化とつながりの深いアルパカ牧場や大使館と連携したイベントを実施、また、キヌアを輸入業者から安く提供してもらい、子ども食堂や路上生活者を支援する団体に活用しても



1 2019年に中国で開催されたキヌア・サミットに招待され講演を行ったときの日高さん(右端)と南米を代表するキヌア研究者たち  
2 現在、八ヶ岳で栽培しているインカベリー。「生でもドライでも甘酸っぱくておいしい」と日高さん



らったりもしました。コロナ禍前までは大学のオープンカレッジでキヌアの栽培や調理を体験する講座を主宰してきました。今後はインカベリーやアマランサスなどにも広げ、自分の畑で体験講座を行い、自身の学びにもつなげていきたいなと考えています。協力隊に参加するため八ヶ岳の農業学校で学び、その三十数年後、再びこの地に戻って農業を始めたことに不思議なご縁を感じています。

令和版

# 隊員活動の トラブル脱出法

活動期 ～ 開花期編



活動の進め方は隊員それぞれ。着任してすぐにロケットスタートが切れる人もいれば、少しずつ現場に慣れていくスロースターターもいて、正解はない。周囲と自分を比較して、焦ったり落ち込んだりする必要もない。活動の進め方に迷ったときに、先輩方の失敗例や成功例を知っていただければ、自分なりの進め方を見いだすヒントになるのではないかと。そんな願いを込めて、前号に続き、1996年の本誌の記事「隊員活動のトラブル脱出法」をテキストに、NPO法人九州海外協力協会に所属する協力隊OVに語り合ってもらった。

Text=池田純子、ホシカワミナコ(本誌 P6)  
Photo=千川修(P7クロスロード)、ホシカワミナコ(本誌 取材時)



クロスロード1996年10月号の丹羽さんの記事の全文はPDFをウェブサイトに公開中

〈体験記を書いたのは〉  
丹羽 進さん

NTT退職後、岐阜県で有機農業・自然農を行いながらご家族で農家民宿「なかよしぞく」を運営。

## 任期中盤から終盤まで 「隊員活動のトラブル脱出法」 について語り尽くす



「クロスロード1996年10月号」。当時、NTT国際本部海外事業推進室に勤務しながら、現職参加でインドネシアの電子通信事業会社・PTテレコムニカシ・インドネシアに赴いた丹羽 進さん(電話線路/1993年度1次隊・岐阜県出身)がまとめた「インドネシアで学んだ体験的 隊員活動のトラブル脱出法」には、派遣される前の心構えから、着任後1〜3カ月でやっておくべきこと、半年過ぎてうまくいかないときの対処法、1年半から2年の任期

終盤の過ごし方など、任期中に誰もが直面する悩みやトラブルを乗り越えるためのノウハウが詰まっている。記事中で協力隊活動の2年間を、大まかに「着任期」「適応期」「活動期」「開花期」に分けており、前号では「着任期」「適応期」を取り上げた。今号では、後半の「活動期」「開花期」を取り上げる。前号と同じく「NPO法人九州海外協力協会」から、派遣国や職種、隊次の違う5人の方がご自身の経験を踏まえて語り合った内容をお届けする。

### 大まかにみた 協力活動の2年間

※クロスロード1996年10月号より

**着任期**(着任〜3カ月)  
見るもの聞くものすべてが初めてで、職場に行っても仕事になりません。まずは基盤の生活を整える時期。

**適応期**(3カ月〜半年)  
職場の人たちの顔や名前を覚え、仕事の内容が少しずつ見えてきますが、まだ本格的な活動はできません。

**活動期**(半年〜1年半)  
職場の人たちにも慣れ、仕事も一緒にできるようになり問題点も見えてきて、本格的な活動が始まります。

**開花期**(1年半〜2年)  
今まで取り組んできた活動の成果が徐々に始めます。活動の引き継ぎや、帰国の準備で大忙しです。

### 参加してくれた NPO法人九州海外協力協会の皆さん



事務局長  
まる たかひろ  
丸田隆弘さん  
ホンジュラス/村落開発普及員/1986年度2次隊・長崎県出身  
●農協を退職後、1986年に協力隊に参加。ホンジュラスの農業協同組合で経理、財務を担当。89年にホンジュラスのボランティア調整員(現企画調査員[ボランティア事業]、以下VC)。94年にニカラグア事務所長、2006年にドミニカ共和国VC、18年グアテマラVCなど、中米・カリブを中心に活動。現在NPO法人九州海外協力協会事務局長。



さかい  
酒井マリさん  
ネパール/きのこ/1992年度1次隊、ブータン/きのこ/1995年度9次隊、SV/ネパール/きのこ(林業森林保全)/2004年度0次隊・鹿児島出身  
●メーカー勤務を経て、海外暮らしへの憧れから協力隊に応募。1992年にきのこ隊員としてネパールへ。農業研究所のきのこ部門で、きのこの栽培法を研究。その後は95年度に短期でブータン、2004年度にシニアボランティアとして再びネパールに赴任。現在は鹿児島県国際交流センターの事業主任。



くわやまさひろ  
桑山昌洋さん  
ボツワナ/SE(コンピュータ技術)/2000年度3次隊・鹿児島出身  
●大学でウイルス学を研究中、研究活動の一環で南米に行った際、子どもの貧困問題を目の当たりにし、自分も何かできないかと協力隊に応募。教育単科大学のイングリッシュ&コミュニケーション科にSE(コンピュータ技術)講師としてボツワナに赴任する。現在は鹿児島県国際交流センター所長。鹿児島県OB会顧問。



しもまつひろかず  
下松裕和さん  
日系JV/ブラジル/日系日本語学校教師/2010年度0次隊・鹿児島出身  
●東京都内の百貨店に勤務後、鹿児島県にUターン就職。古き良き日本が残る日系社会に惹かれて、ブラジルでの日系日本語学校教師を志望。日伯文化連合会に配属され、日本語授業のほか、劇やミュージカルの指導も行う。現在は鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター(KAPIC)総務課長。



まえはら むりょう  
前原無量さん  
スリランカ/環境教育/2015年度1次隊・兵庫県出身  
●民間の事務局勤務を経て、フィリピンに語学留学。途上国の環境問題に触れたのを機に、帰国後、協力隊に応募。スリランカの市役所の保健教育部に環境教育隊員として派遣される。ゴミの削減問題をメインに活動に取り組み。現在は鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター(KAPIC)に勤務。

NPO法人九州海外協力協会  
JICA海外協力隊など、海外での在住経験者が中心になって構成。「すべての人々がお互いを尊重し認め合える世界」の実現を目指し、ワークショップや国際協力プロジェクトなどを行う。鹿児島県国際交流センター、鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターも委託運営する。



1996年10月号の丹羽さんの体験記より

※部分抜粋

言葉がネックになっている人に (前文略) インドネシア語の本当の意味での勉強は、早ければ早いほどあなたの活動を助けます。自腹を切つても、継続的に行いましょう。目指すは、「仕事上の書類を読み書きできる」、「仕事上の会議で意味が分かり、自分の意見が述べられる」の二つです。 (中略)

活動をするにあたって大切なのは語学ですが、さらに必要なのは技術的なパフォーマンスです。 (中略) みんながもたもたとやっている時に、横からあなたがサツときれいにやってしまう。あるいは、何人かかってもどうにもならないものを、あなたが一人で簡単に仕上げてしまつて。こういった技術は、あなたの実力をまわりに示すいい機会なので有効に

使いましょ。 (中略) しかし、そういう技術を乱発すると「尊敬されるエキスパート」から、「都合のいい技術者」になつてしまつておそれがあるの

いる人は大勢います。確かに「仲間と同じ仕事を一緒にやっていたら、いつかその中から自分のやり方を学んでくれるだろう」という考え方もあるでしょう。 (中略) ドネシアの仕事の流れの中に入つて、ようやく仕事の内容を覚え、みんなの足を引っばらないようになつただけで、ベテランの職員から見れば、見習い状態ではないのでは

### 言葉がネックになっている人に

活動をするにあたって大切なのは語学ですが、さらに必要なのは技術的なパフォーマンスです。

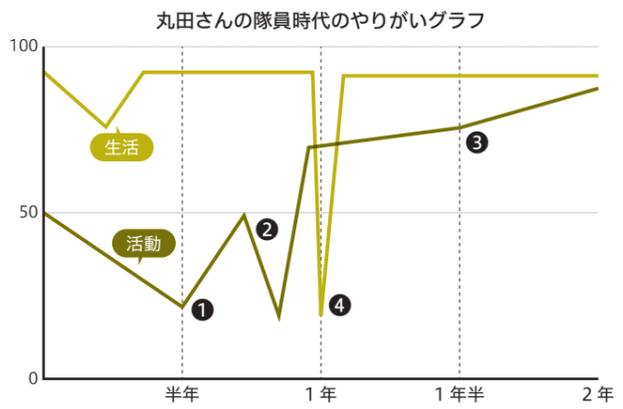
使いましょ。 (中略) しかし、そういう技術を乱発すると「尊敬されるエキスパート」から、「都合のいい技術者」になつてしまつておそれがあるの

いる人は大勢います。確かに「仲間と同じ仕事を一緒にやっていたら、いつかその中から自分のやり方を学んでくれるだろう」という考え方もあるでしょう。



丸田さん ホンジュラス 村落開発普及員

隊員活動は自分から働きかけないと始まらない！ 大きく成長できるチャンスです



丸田さんの隊員時代のやりがいグラフ ①最初は慣れなくて下がり気味ですが、任地替えでアップ。 ②語学のために新聞を読んでいたらサボっていると思われてモヤモヤ。 ③家族が来訪してからは、気持ち切り替わりました。 ④デング熱で一度ダウンしたものの、2年間ほぼ健康でした。

のを、あまりよく思っていないと感じる場面が多々ありました。私としては生徒たちの世代はポルトガル語が日常語なので、日本語を国語としてではなく、外国語として学ばせないと定着しないという思いがありました。そこで先生方の信頼を勝ち得るために、いろいろな行事に積極的に出たり、私が得意とするものづくりの面で貢献したりしました。 丸田…そう。聞く耳を持つてもらえるように動くのは大事です。「彼の言うことなら聞いてもいいか」と、相手に思ってもらえたらしめたものですからね。

酒井…私はネパールの農業研究所のきのこ部門に配属されましたが、技術のあった先輩隊員のようにはできなかったため、職場の人たちと相談し、ネパールで手に入る素材と職場の機材を使って各種きのこの簡単な栽培試験をして結果をまとめました。また、農家向けの研修に使うスライド教材も作りました。ネパールは識字率が低く、農家は読み書きができない人も多かったため、文字の資料よりも視覚教材が必要だと思つたからです。とにかく自分でできることを探して、そこから糸口を見つけて、活動を広げていきました。

## 活動が本格的に展開するイメージを持つ

編集室…今回は着任から半年が過ぎてからを取り上げます。まずはご自身の活動が本格化していった頃の体験談をお話しいただけますか。 丸田…私の場合、現場を見たいと思

いよいよ活動は本格化 (中略) 着任から半年の間を無事乗り切り、自分の活動の全体像も見えてくれば、活動に余裕ができてきます。生活も軌道に乗り、インドネシアの素晴らしい文化にも目が行くようになってきます。日本にはない途上国の熱気に満ちた活気の中で、新しい価値観が芽生えてきます。 (中略) 活動のほうも一年を過ぎれば、後任の問題や自分の活動をどういう形で締めくくるか、考えなければいけなくなつてきます。

「終わり良ければすべてよし」という諺にもあるように、どんなに途中の活動がうまく行っている人でも、最後になって関係がまずくなつてしまえば、「あんなのは、来てくれないほうが良かった」と思われてしまい、今までの良い思い出をすべて暗い思い出に変えて、帰国しなければいけなくなります。 今、あなたが最悪の状態にあつたとしても、あなたが帰国する時点で良い関係を残すことができれば、「もつと居てくれ」、「帰らないで欲しい」と、みんな思つてくれるでしょう。(以下略)

P)と共に首都の本部から地方の支部に任地替えをして、協同組合のトラックに乗せてもらつて、地元の農家の状況を調査、分析、改善などをしました。すると、だんだんと地元の人と顔見知りになってくるので、その村のパーティなどに呼ばれるようになるんです。「ここでしか造れないワインができたから飲みに来て」と誘ってもらえたりして。地元の人たちの生活にじかに触れるようになります。語学も上達するので、日本の組織の運営の仕方や暮らしについても語れるようになります。村の人たちから「うちにも来て話して」と言われるようになってから活動が楽しくなつてきました。 前原…丸田さんのように私も現場に出ました。ゴミ収集車に乗つて、3カ月目ぐらいから分別回収の割合などのデータを取り始めました。前号でデータが大事といった話をしましたが、集めたデータは分析し、CPと改善策を話し合いました。最も働きかけたのは、予算策定期です。分析した結果、ゴミ収集車が足りないことがわかつたので、新しいゴミ収集車と、みんながデータを共有できるようにパソコンとプリンターを入れてほしいと、私からCPに要望を伝え、CPから上司に掛け合つてもらつていました。CPが正式な文書を書くのに必要な情報や資料は、私が用意しました。その後、CPが市のナンバー2の立場にあるコミッ

シヨナーに掛け合つたところ、その方が中央官庁に交渉してくれて、ゴミ収集車2台の導入に成功したという成果につながりました。 丸田…前原さんがデータを示して熱意を見せたことで、お互いにやるうという気になつたのでしよう。 桑山…私は小学校教育に携わる先生を育てる教員養成学校で、PCの使い方を教えていました。教員経験がなかったこともあり、最初の頃は夜中の2時までかかつて次の授業の準備をしていましたが、半年も過ぎれば、準備も指導もスムーズにできるようになりました。PCに興味を持ち、授業外に質問してきた生徒たちとのやりとりもすべて報告するなど、CPとは細かく意思疎通を図りました。こちらが見ている以上に、配属先もこちらをよく見えています。特に私の職場は、元小学校教員の先生が多かつたので、皆さん小学校教育のプロ。一挙手一投足を見透かされる感じがして、緊張感を持って仕事をしていました。 下松…確かに、仕事ぶりは見られていますよね。私が配属された日系日本語学校も、同僚はベテランの女性教員でしたから、若手の男性教師がどのように教えるかは気にしていたと思います。先生方は伝統的に「継承日本語」という国語教育の方法にこだわりの誇りを持っていらつたので、私が「外国語としての日本語教育」を実践しようとする

1996年10月号の丹羽さんの体験記より

※部分抜粋

### 活動期 (半年〜1年半)

(中略)



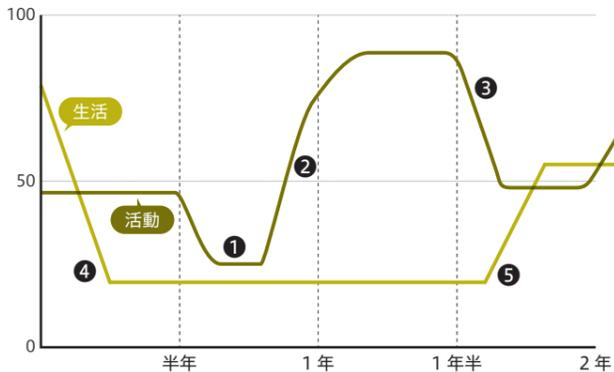


前原さん

スリランカ  
環境教育

組織の一員として  
何をすべきかを考えると  
うまくいく気がします

前原さんの隊員時代のやりがいグラフ



①データ分析などで試行錯誤。②成果があらわれてやりがいもアップ。③慣れてしまってワクワク感がダウン。④現地の食事や住環境が合わず、生活のモチベーションは低いまま。⑤家族との観光でリフレッシュ。

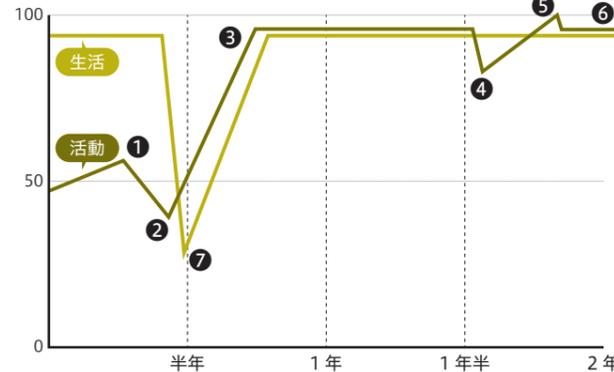


下松さん

ブラジル  
日系日本語学校教師

最初は現地のやり方を尊重し  
徐々に自分の目的を  
見いだしていきました

下松さんの隊員時代のやりがいグラフ



①様子を見ながら自分の指導方法を模索。②日本祭でソーラン節の指導方法について、現地の先生と衝突。③劇の発表会。④指導方法で少し悩む。⑤ミュージカル発表会1回目。⑥ミュージカル発表会2回目。⑦尿路結石にかかり、悶絶。

1996年10月号の  
丹羽さんの体験記より  
※部分抜粋

### 開花期（1年半〜2年）

#### 帰国準備にかかる頃への アドバイス

多くの人は、1年半過ぎから  
本当の意味での活動が始まりま  
す。着任後から蒔いた種が芽を  
出してくるからです。

今までの活動はいわば準備期  
間。これからが自分の持てる力  
を100パーセント引き出せ

気を抜いたり、焦ったりして  
人間関係を壊すことのないよう  
注意して下さい。そして一番盛

る時です。ちよつとエンジンの  
かかりが遅いですが、実際には  
こんなものです。

全く何も分からず、何もでき  
ない状態から1年半で仕事の  
できる状態にしてしまつて自  
すこいことです。残り半年とい  
つても、最後の1カ月は帰国の  
準備や、ジャカルタでの手続き  
のために仕事はできません。残  
りの5カ月間を完全燃焼させて  
下さい。最後が肝心です。

り上がっている時に帰国でき  
れば、感動的な別れが待ってい  
ます。（以下略）

をしませんでしたが、VC時代には、  
任国外旅行をしていない隊員には、  
行くように促しました。外から派遣  
国を見ると理解が深まりますから。  
桑山…実は私は任期を1年延長した  
んです。2年の活動が終わる頃、も  
うすぐ帰ることをCPに伝えたら、  
後任が来ないから困る、もう1年い  
る気はないかと言われて、あれよあ  
れよといううちに、延長が決まりま  
した（編集室注・現在は活動期間が

延びることは原則ありません）。  
丸田…任期延長は隊員の希望で申し  
出るものではなく、配属先から求め  
られて決まるものだから、理想的  
なケースだと思います。  
桑山…そのおかげで、2年間では  
できなかった教科書のアップデートが  
できました。3年目は新しく入職し  
た現地教員と組んで進めることが  
できたので、技術移転にもなりました。  
酒井…私は、栽培試験の都合などで

## 感動的フィナーレ？ 残り半年の過ごし方

編集室…協力隊員の活動は基本2年  
間ですが、いい具合に活動を形に  
して終えるのは、難しくありません  
でしたか。

下松…丹羽さんの記事には「2年間  
では短すぎる」とあります。私は、  
赴任当初は長いと感じたものの、振  
り返ってみるとあつという間でした。  
残り半年でミュージカルの発表会が  
2回続けてありましたから。

丸田…2年の活動期間は、短すぎず  
長すぎず、絶妙な設定だと思えます。

4カ月だけ任期を延長しました。さ  
らに、10年後にシニアボランティア  
（以下、SV）で、再度ネパールに  
派遣されました。その際はきのこを  
普及する部署でしたが、隊員時代の  
ネットワークを変わらず活用できま  
した。また、ネパールの状況が変わ  
り、できるようになったこともあり  
ます。例えば、隊員時代には、「しい  
たけ原木栽培をすることによって、  
森林破壊が進む恐れがある」といっ  
た理由から試験栽培さえもできませ  
んでした。しかしSVのときには原  
木の伐採が可能になり、原木栽培の  
普及を始めることができました。隊  
員時代にできなかったことを、SV  
でリベンジできました。

編集室…最後の5カ月で「完全燃  
焼」とありますが、任期終盤ほどの  
ように終えていきましたか。  
下松…最後のミュージカルは私の帰  
国2週間前で、市民劇場という大舞  
台での公演が決まっていました。一  
部の大人からは、「この子たちにはそ  
んな実力はないだろう」といったネ  
ガティブな声もありましたが、子ど  
もたちは見事にやりきってくれまし  
た。丹羽さんも「一番盛り上がりつ  
ている時に帰国できれば、感動的な別  
れが待っています」と書かれていま  
すが、まさにそれです。私にも感動  
的な別れが待っていました。

丸田…私がお別れのときに自分の貯  
金でラム酒や肉を買って、カレーを  
作って、皆さんにお礼のパーティを

同じ職種の隊員やOVと知り合うこ  
ともできますし、連絡し合えます。

編集室…都道府県別や国別、職種別  
のOV会でも先輩隊員とつながれま  
すし、技術顧問や技術専門委員に  
メールで質問することもできますね。  
前原…私が帰国してからも後輩隊員  
から「前原さんのときはどうでした  
か」といった連絡がきて、やりとり  
していました。

桑山…活動や生活面で煮詰まってい  
ましたときも、SNSを使うことで、  
うまく息抜きができるのではないで  
しょうか。

3年だと活動は向上する一方、現地  
の生活や感覚に慣れ過ぎてしまい、  
帰国後に逆カルチャーショックで苦  
労することもありますからね。

前原…私も2年はすぐといった感覚  
です。活動が忙しく任国外旅行をす  
る暇もなかったことは後悔していま  
す。帰国が近くなったタイミングで  
家族が遊びに来たので、せっかくだ  
からと約1週間休暇をもらい、家族  
とスリランカの国内観光はしました。  
丸田…私も毎日忙しくて一切、旅行

しました。組合長さんや地元の人か  
らは、「セニョール丸田、ありがと  
う」と感謝されて、笑顔でにぎやか  
に活動を終えました。

前原…現地の人に「帰らないで」と  
泣かれる隊員もいますが、私の場合  
は「2年間お疲れさま、ありがと  
う」と、わりとクールでした。何代  
にもわたって派遣されているので、  
任期満了になったら帰るとわかって  
いるからでしょう。でも相手からの  
感謝は伝わってきました。協力隊の  
後任への引き継ぎも、私が先輩にし  
てもらったように、引継書を作って  
渡しました。ここ10年くらいのスリ  
ランカの環境教育隊員の場合、共有  
のクラウドで全隊員の活動内容が共  
有できます。組織図や関係機関の名  
簿、どんな書類をどこに出したか、  
シンハラ語の用語集などの資料も  
入っていて見ておくだけでも活動の  
取り組み方が変わってくるのではな  
いかと思います。

丸田…2年間の隊員活動は、長い人  
生の中でも特に得難い経験で、その  
後の人生観が変わります。VC時代  
に、帰国する隊員から「赴任当初は  
続くか心配でしたが、自分が大きく  
なりました」と言われると、胸が熱  
くなりました。私は隊員としてはさ  
ほど成果は残せなかったと思ってい  
ますが、自分の人生これでよかつた  
と心底思います。現役隊員の皆さん  
も、自分のペースで、能動的な2年  
間を過ごしてください。



お話を伺ったのは

かめやま えりこ  
亀山恵理子さん

PROFILE

奈良県立大学地域創造学部准教授。1995年夏、医療支援を行っていたグループに同行し、独立前の東ティモールを初訪問。以後、同グループの現地訪問や独立運動を進める東ティモール人の講演会などで通訳を務める。2000年以降、NGOアドラ・ジャパンやJICAのスタッフとして現地にも駐在した。

バリ島の東方にあるティモール島はかつて、いくつもの王国に分かれていた。16世紀にポルトガルが全島

を植民地化し、17世紀半ば、インドネシアを植民地にしていたオランダが西半分を占領した。第2次世界大戦中の1942年から終戦までは、日本軍が東ティモールを占領した。「占領中、日本軍から暴力を受けた人もいます。そのことを忘れてはいけません」(亀山さん)

独立前の1995年から東ティモールの支援に関わり、「東ティモールに自由を！全国協議会」の講演会で、来日した東ティモールの人たちの通訳もした奈良県立大学准教授の亀山恵理子さんは「この国の場合は特に、苦難の歴史を知ったうえで行くことが重要」と話す。

74年、ポルトガルの政権交代で東ティモールの植民地支配が放棄されると、75年に独立を宣言。するとインドネシアが軍事侵攻し、併合を宣言した。「国際法上、東ティモールは、インドネシアになっていません。独立について、「インドネシアからの独立」というのは、正確ではありません」と亀山さんは話す。

独立から20年。亀山さんが注目するのは、アートや文化。かつては、若者が書いた演劇の脚本を、インドネシア軍の監視を恐れた家族が燃やしてしまうことさえあったが、地元

のテトゥン語による小説や若者の映像作品が自由に発表され始めている。

東ティモールは20年前の2002年5月20日、「21世紀最初の独立国」として新たな歩みを始めた。協力隊の派遣は10年、短期ボランティアの派遣から始まり、翌11年から長期ボランティアが派遣されている。当初はPCや機械に関する職種から手工芸まで幅広い分野で派遣されたが、現在は、保健、農業、観光、スポーツの4分野に重点が置かれている。

独立後の戦争で家族を失った人も多く、その後も軍への抵抗運動は続いた。「軍に見つかって被害を受けた住民も少なくありません。最悪の場合、命を落とすこともありました」(亀山さん)。99年、独立の是非を問う住民投票が行われ、約8割が「分離・独立」を選択。その後、独立反対派による破壊・暴力行為が激化した。国連は多国籍軍を派遣し、国連東ティモール暫定行政機構を設立し、2002年5月の独立に至った。

独立を果たすまで、東ティモールはポルトガル、日本、インドネシアの支配下であり、多くの苦難を背負ってきました。独立前から東ティモールの人々と関わり、現地に駐在したこともある奈良県立大学准教授の亀山恵理子さんに歴史と現状をお聞きしました。



インドネシア支配下、不安定な生活のなか、栄養不足などで亡くなる人もいた。1980年代初頭に亡くなった人々を祀る墓=マヌファヒ県、2015年(亀山さん提供)

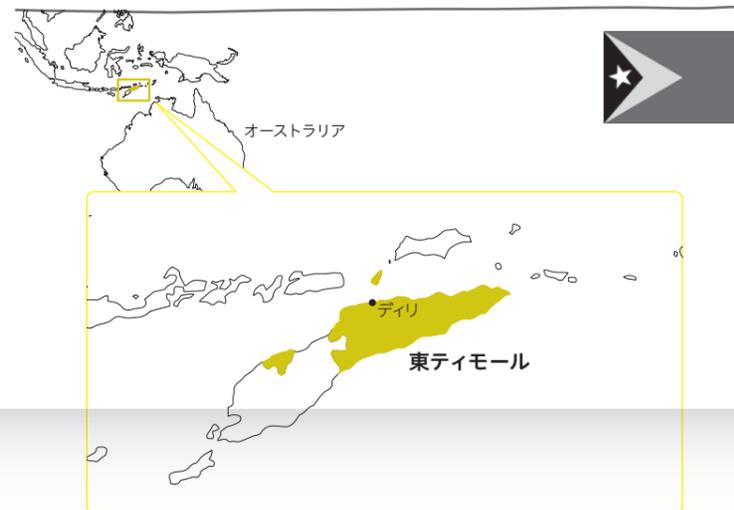
## 長い支配と困難を経て 21世紀最初の独立国誕生から20年

## 派遣国の 横顔

### 知っていますか？ 派遣地域の歴史とこれから 〈東ティモール〉

美しい海と星空、さまざまな自然の恵み。  
独立から今年5月で20年を迎えました。

### 東ティモールの基礎知識



#### 東ティモール

面積：1万4,900平方キロメートル(東京・千葉・埼玉・神奈川の4都県の合計面積とほぼ同じ大きさ)  
人口：約130万人(2021年、世界銀行)  
首都：デシリ  
民族：メラネシア系とバプア系。その他マレー系、中華系など、ポルトガル系を主体とする欧州系およびその混血など  
言語：公用語はテトゥン語とポルトガル語。実用語にインドネシア語と英語。その他、30以上の方言が使用されている。  
宗教：キリスト教99.1%(大半がカトリック)、イスラム教0.79%

\*2022年1月12日現在  
出典：外務省ホームページ  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/easttimor/>

#### 派遣実績

派遣締結日：2005年1月25日  
派遣締結地：デシリ  
派遣開始：2010年4月(短期)  
派遣隊員累計：116人  
\*2022年3月31日現在  
出典：国際協力機構(JICA)

いしやましゅんたろう  
石山俊太郎さん

コミュニティ開発／2014年度2次隊・東京都出身

PROFILE

大学で経済学や会計、マーケティングを学んだのち、広告代理店に3年間勤務。「スペシャルティコーヒー」に魅了され、将来の起業を決意。経験を生かすと共に、コーヒー産地の状況を学ぶため、協力隊に参加した。2016年、コーヒー製造のBUCKLE COFFEEを設立。東ティモール産のコーヒーも扱う。



さまざまな野菜が並ぶバウカウ地方の市場=2015年(石山さん提供)



矢加部さんが担当した写真講座で、子どもたちの写真を撮る受講生たち。当時はカメラに触れるのが初めてという人もいたという=2012年(矢加部さん提供)



や か べ さ き  
矢加部 咲さん

写真／2011年度1次隊・熊本県出身

PROFILE

熊本市現代美術館で市民参加型のプロジェクトなどを担当後、アートと社会との関係に興味を持ち、協力隊へ。2014年から認定NPO法人「JHP・学校をつくる会」カンボジア・ブノンペン事務所で、芸術教育支援事業に取り組む。2018年より所長。祖母の兄は第2次世界大戦中、ティモール島に駐留していた。

新しい国づくりへ  
平和構築から  
始まった支援

心の復興から産業復興や健康面の支援へ。東ティモールでの協力隊の活動の重点も変わった。3人の経験者に取り組みと思いを聞いた。

思いを表現する  
青少年向け写真講座

独立10年目の2011年、東ティモールへの長期隊員の派遣が始まった。占領や混乱の傷が懸念されていた時期でもあり、平和構築や青少年活動に取り組む東ティモールのNGO Bafuturu(以下、バフトウル)に複数の隊員が派遣された。その一人が写真職種の矢加部咲さんだ。

バフトウルは、語学やアート、スポーツなどの活動を行うピースセクターを運営し、青少年に広く開放していた。矢加部さんは着任後、センターの活動の一つ、写真講座を担当した。回ごとに、人、子ども、スポーツなどとテーマを決め、デジタルカメラで自

由に撮影し、撮影した写真を発表して、みんなで意見を言い合ったり、矢加部さんが講評したりした。参加者の多くは15〜20歳。スマートフォンが普及する前で、初めてカメラに触る受講生もいた。

時には写真に2〜3分の音声をつけた作品を制作した。誰にインタビューをするかはグループで話し合ってた。海沿いで水やジュースを売っている男の子」「市場で働いている女の子」などが目立った。

市場で働いていた13歳ほどと思われる女の子は、インタビューで、自分の学費を自分で稼いでいると話した。「どんなことをしたい？」との質問に、「勉強したい」「少しだけ遊びたい」と答えた。「ぐっとくるものがあった」と振り返る矢加部さんは「自分たちの抱えている問題を伝えたいという受講生の思いを感じた」という。

半年後、今度は、地域コミュニティ向けのプロジェクトの一環として写真講座を担当することになった。対象は、過去に問題行動があるなど「将来的なリスク」を抱えた18〜25歳の青少年。そうした青少年に「平和をつくりだす心」を持つてもらおうのが狙いだった。写真の基礎を学んだあとで作品づくりに取り組み、半年後、地元コミュニティで行うピースフェスティバルで作品を発表するという計画だった。「最初



写真講座の受講生の作品。小指に「過去」、中指に「現在」、親指に「未来」の文字ががぶせられている=2012年(矢加部さん提供)

活動の舞台裏

祭りのごちそうはヤギ

東ティモールのお祭りでは、牛や豚、ヤギを用意し、丸焼きにしたあと解体し、みんなで食べるのが習わしだ。コミュニティ開発で派遣された石山俊太郎さんは任地に入っ

てすぐ、この「儀式」に参加することになった。その日、多くの住民が集まり、女性たちを中心にご飯の用意が進められていた。石山さんも料理の手伝いを促され、戻ってきた役目



祭りの準備でごはんを炊く女性。欠かせないのが、牛や豚、ヤギなどの丸焼き=2014年(石山さん提供)

地元の祭りに加えてもらった経験から、石山さんは、ヤギを育てて売ること

で収益を上げられるのでは、と考えた。「ヤギは年に2回、2〜3頭出産します。雑草を食べるのでエサもいら

んなさ」と。講座を通じて、矢加部さんは、アートの意味を感じたという。「アートには自分を表現すること、自分を見直す効果、心に直接アプローチする効果があります。周りの人と話すきっかけにもなり、話し合いで問題を解決しようというメッセージになったと思います」。

女性生産者の馬力を  
引き出し収益アップ

心の復興と共に、産業の復興・開発も欠かせない。主要産業の農業で、「イノベーション」を起こしたのが、女性を中心とする生産者グループを支援す

るNGO「CDC」に2014年に派遣された石山俊太郎さんだ。CDCは、東ティモール第2の町、バウカウを拠点に、約15の生産者グループを支援、特産品の栽培や商品開発、販売をサポートしていた。着任早々、CDCの全スタッフが2週間出張に出でしまい、石山さん一人が取り残されるという予想外の事態に直面したが、この期間を使って、石山さんは全グループの報告書を通して読んだ。

「成果が出ていないということは、生産者のためになっていないし、生産者のためを思ってNGOを支援したドナーの気持ちにも応えられていない」と石山さんは考えた。そして、CDCのスタッフももっとしっかり状況をフォローし、生産者たちを支援していかなければならない、そのためには、スタッフも変わらなければならないと考え、指摘した。

## 活動の舞台裏

### テトゥン語・インドネシア語・ポルトガル語

東ティモールの言語を巡る状況は複雑だ。現在、多くの住民が使うのは地元の言葉で、公用語でもあるテトゥン語だが、学校授業はもう一つの公用語であるポルトガル語で行われている。しかし、年代によって使用する言語が異なり、インドネシアが侵攻していた時代はテトゥン語の使用が禁じられ、教育現場や役所などではインドネシア語が使われた。



東ティモールの子どもたち。日常生活ではテトゥン語を使うことが多いが、学校の授業はポルトガル語で行われている=2015年(石山さん提供)

独立後の2011年、最初の長期派遣で活動した矢加部咲さんは、訓練所でインドネシア語を学び、テトゥン語は東ティモールに入ってから学んだ。現地でのテトゥン語の研修では、外国人講師から英語で学んだ。写真を教える生徒とのやりとりもテトゥン語だった。

14年度派遣の石山俊太郎さんの場合も、訓練所でインドネシア語を学び、現地入りしてからテトゥン語を学んだ。しかし、石山さんは「赴任後、会話する人の多くは30代以上だから、インドネシア語が通じるはず」とテトゥン語の学習に時間を割くのはやめにしたという。「実際、住民が15~20人集まっても、インドネシア語が通じない人は1人か2人で、ほかの人を介せばコミュニケーションができました。ただし、私が小~中学校で教える職種だったら、若い人はインドネシア語が話せないで、テトゥン語を学ぶ必要があったと思います」。

訓練所での語学研修は2018年度からテトゥン語になった。



スタッフに説明する富田さん(中央)(富田さん提供)



医薬品倉庫の整理を進める富田さんとSAMESスタッフ(富田さん提供)



とみたひろみ  
富田裕美さん

コンピュータ技術/2017年度2次隊・埼玉県出身

#### PROFILE

大学在学中の2012年、外務省の21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYSプログラム)で東ティモールを訪問。システムエンジニアとして勤務後、協力隊に参加した。現在は、(財)日本国際交流センターの同国駐在スタッフとして、行政官の日本留学を支援する「人材育成奨学計画」(JDS)を担当。

「1カ月間、どちらが多くピーナツを販売できるか勝負しよう」とスタッフに持ち掛けた。「負けたら自分は日本に帰る」と覚悟も伝えた。

石山さんはパウカウ市内の小売店を回り、ピーナツを売ってくれるように話をした。結果は、石山さんが圧倒した。スタッフたちは、生産や販売について頭で分かっている、商品や販売を置いてくれるように実際に店と交渉した経験はほとんどなかった。

売り上げが伸びなかった背景には、CDCのスタッフの問題のほかに、生産者グループの女性たちの基礎的なスキル不足もあった。原材料や包装資材にかかっている費用より安い価格で卸す約束をしてしまうこともあった。集金を担当する人が計算できず、売上金が正しく回収できていないこともあった。独立前の混乱で、教育の機会を奪われたことによる影響と思われた。生産量を増やす余地も、販売量を増やす可能性も十分にあった。一つの試みとして、パウカウだけでも何十とある小売店で、小学生向けの菓子を売る戦略を立てた。「子どもたちは毎日、25~50セントを渡されて学校に行き、校内のキオスク(販売所)でインドネシア製のお菓子を買っていました。同じ価格帯の菓子を作って販売すれば、商品も売れ、お金は地域で循環すると考えました」(石山さん)。

考えた富田さんは「まずは机の上から始めましょう」と声をかけて、片づけの意識付けから進めることにした。新たに立ち上げる地域事務所がうまく運営されるように、異動していく職員へのトレーニングに力を入れた。

### 次代を担う人材 刺激を受けて次々に

富田さんの派遣中、配属先のSAMESの職員が、JICAが実施する日本での医療関係の研修に参加したことがあった。「職員は別人のようにになって帰ってきました。カイゼンの取り組みに否定的だったのに、研修から帰国した

グループごとに、ピーナツに卵を絡めた「エッグピーナツ」や、トウモロコシが原料の「コーンクッキー」などの菓子を売って売ったところ、この戦略は成功した。グループによっては、1カ月に1~3ドルだった女性生産者たちの給料が10倍以上になったところもあり、女性たちは「お米が買える！」と喜んだ。生産量を増やし、首都の小売店に販売するグループも出てきた。

邁進する石山さんを見て、距離を置いていた同僚からも石山さんと一緒に動く者が増えていった。活動がうまくいっていないグループについての情報や相談も寄せられるようになった。

### 命を支える医薬品倉庫で 管理能力を引き上げる

各国から東ティモールに提供された

後は、中心となって動いてくれるようになり「富田さんは「人を育てる支援は、その人も、その人の所属する組織も変える可能性がある」と実感した」と話す。

石山さんは派遣中、農業学校でマーケティングについての講義もしていた。10~20代の受講者に毎回、「将来、何をやりたいか」を書いてもらっていたが、「九割九分、無回答。つまり将来が考えられない状態でした」。一方、石山さんが指導し、農作物の生産や商品販売で成功を味わった生産者グループの女性たちには大きな変化があった。「首都のデイリリ行つて経験談を話してもらおうと、実に堂々とプレゼンテーションをす



美しい東ティモールの海=2015年(石山さん提供)

多くの医薬品を一元的に管理し、各地の病院や保健所などに配布する保健省の機関「医薬・医療用品サービスセンター」(以下、SAMES)。その巨大倉庫の運営をコンピュータを使った在庫管理で支えるため、2017年10月に派遣されたのが、コンピュータ技術職種の富田裕美さんだ。

SAMESでの在庫管理は機能してなかった。「配属先には在庫管理システムが導入されていましたが、省庁の方針によって突如システムが変更されたり、使用停止になったりすることもありました。管理が行き届かないために、消費期限が切れるなどして廃棄される医薬品もありました」と富田さんは振り返る。

コンピュータを使うためのインターネット環境も整っておらず、時々停電も発生する状況。「このままでは、いつになっても管理は改善しない」と考えた富田さんは、コンピュータによる在庫管理を断念し、日本の「5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)カイゼン」手法による管理を取り入れることにした。「5S・カイゼンには、取り巻く環境に左右されず、お金をかけず、誰でもできる、というメリットがあり、これこそが重要だと考えました」(富田さん)。

大規模なSAMESの倉庫全体で、一気に整理整頓を進めるのは難しいという。成功が非常に大きな自信になったのがわかりました」(石山さん)。

矢加部さんの写真講座でメッセージ性の高い作品を発表していた元受講生から数年前に、矢加部さんにメッセージが届いた。「今は、新聞社に勤めています」。矢加部さんは「講座がすべてではなく、本人の努力が大きいのですが、表現することの意味を確信できました」と話す。

3人が口をそろえることがある。それは東ティモールの人たちが支配された過去を語る際の淡々とした語り口だ。多くの場合、過去の話に怒りや恨みは感じられず、未来への前向きな思いが伝わってくるのだという。

# 専門家に聞きました！ 失敗に学ぶ 現地で役立つ人間関係のコツ



今月の教える人 しらかわちひろ 白川千尋さん

パヌアツ/マラリア風土病(感染症対策) /  
1990年度3次隊・東京都出身

文化人類学者。大阪大学大学院人間科学研究科教授。総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程修了「博士(文学)」。  
国立民族学博物館助教授などを経て、2016年より現職。  
JICA海外協力隊コミュニティ開発の派遣前訓練の技術専門委員も務める。

今月のテーマ：プライベートの保ち方

今月の  
お悩み

ホームステイ先でも子どもたちにも  
囲まれたりして一人になれる時間が持てず、  
イライラが態度に出てしまうことが  
あります。

(天洋州/女性)

活動先でも住まいのある地域でも、日本人に友好的でいい人たちばかりですが、外国人が少ないこともあってか、常に言動を見張られていたり、好奇の目にさらされていような気がします。  
住まいがホームステイということもあって、常に気を使っている

つもりですが、ホームステイ先の子どもたちがよっかいを出してきたり、勝手に私のものを触ったりするのが気になり、ちよつときつめに叱ってしまうこともあります。活動以外の時間も心が休まらず、2年間これを持つのか心配です。

白川先生からの  
アドバイス

外国人であることを盾に、  
意思表示を。ときには任地を  
離れる機会を作りましょう。

ホームステイであったり、外国人がいな地域に派遣された隊員から、よく聞く悩みの一つですね。

日本では家族と同居していても自分の部屋があることも多いでしょうから、赤の他人の家でプライベートな空間が全くない生活は、かなり息苦しいと思います。特に大洋州は壁のない伝統的な家屋に住むこともありま

すから、プライバシーがないこともあるでしょう。  
私のパヌアツでの協力隊時代は、一人暮らしだったのでプライバシーにそこまで悩むことはありませんでした。しかし帰国後、文化人類学者になるためにパヌアツでフィールドワークを行った際は、まさにこの問題にぶつかりました。

電気、ガス、水道が通っていない島で、民家に同居させてもらったのですが、個室がなく、仕切りのない大部屋に10人以上が暮らしていました。大部屋に

ある私のベッドの周りについてはあったのですが、それだけでは気休めにしかありません。離れにあるトイレや水浴びに行くときにも、子どもたちがずらずらとついてきました。

この肌の色が違う外国人は、どんな体をしているのか、どこからどんなものが出てくるのか、自分たちと同じなのか、違うのか——好奇心いっぱい目の向けていました。  
居候の身ですから、最初は皆と仲良くやっていこうと思ったものの、「これでは精神的に行き詰まって、おかしくなってしまう」と、危機感を抱きました。

そこで、「一人になりたいからそっとしておいてほしい」と伝えたり、「勉強しているから」と、ノートを広げて近寄りた

いオーラを醸し出したりしました。意思表示をしたことで嫌な空気になることもなく、大人は理解してくれたので、伝えてよかったと思います。子どもたち

も、3カ月もすれば私のいる生活に慣れて好奇心も薄れてきたように記憶しています。  
ほかの地域の隊員の例もお話ししましょう。イスラム教徒の多い地域に赴任し、苦労していた隊員は複数いました。

外国人女性を迎えることに大変気を使い、外出時には必ず男性家族がついてくるという家庭にホームステイした女性隊員は、「ありがたいものの息が詰まる」と嘆いていました。  
お酒好きの隊員が禁酒の国に派遣された際には、一人暮らしでも近所の目を気にして、窓際から離れて家のなかでこっそり飲酒をしたそうです。お酒の空き瓶を処分するにも気を遣ったことでしょうか。

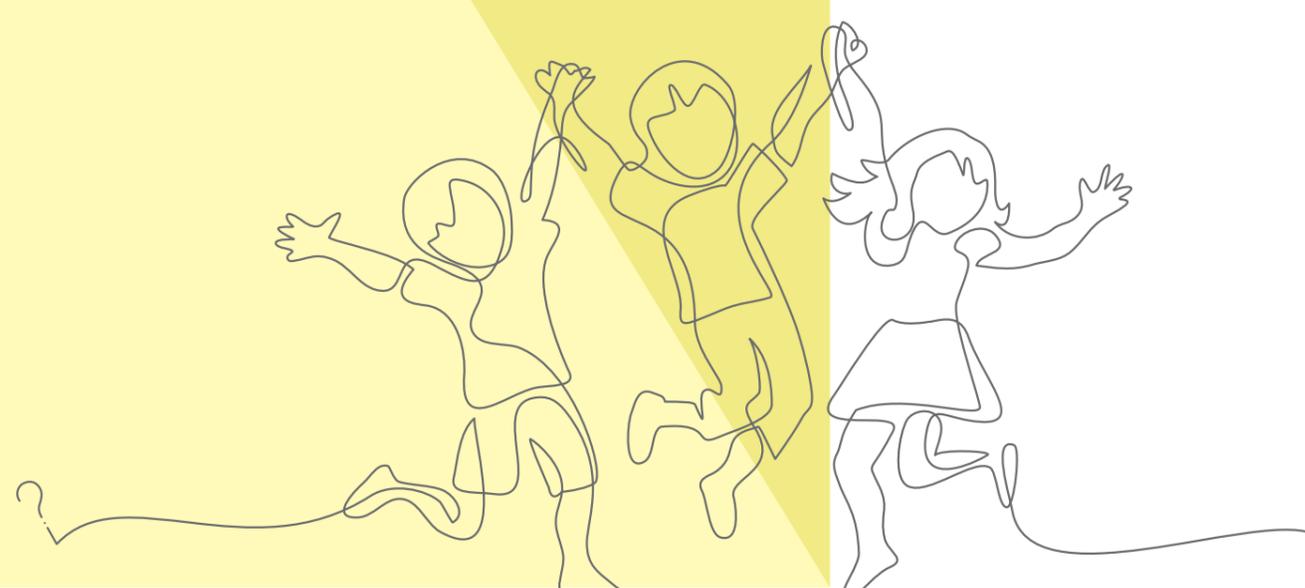
こういった場合には、外国人であることを盾にしていると思

います。「自分は外国人なので、一人になれる空間がないと生活ができない」と主張するのです。個室がなくても、少なくともト

イレや水浴び時はのぞかないことを約束してもらったり、勉強や考え事をしているときには話しかけないでと伝えましょう。  
2年間活動するためには、自分を守らないといけません。いかなるときにも「にこやか」を

目指さなくていいと思います。  
イライラするくらいなら、SNSで気の置けない友達とコミュニケーションを取る時間を設けてもいいでしょう。隊員総会などで首都に出る際、少し長めに滞在して気分転換を図るのもいい。首都なら外国人向けにお酒を出している店もあり、ほかの隊員とも会いやすいので、活動の情報収集や勉強会を活用し、任地を離れている間にセルフコントロールする隊員もいました。

ひたすら我慢し、その国のすべてが嫌になって任期短縮するよりも、つらいときにはその場を離れること。自分で調整していきましょ。



# この職種の先輩隊員に注目!

～現場で見つけた仕事図鑑

#0010

## 「青少年活動」

分類：人的資源

派遣中：29人(累計:1,617人)

類似職種：小学校教育、幼児教育、ソーシャルワーカー

※人数は2022年3月末現在。

### CASE 1



ほそかわ ゆい  
細川由衣さん

モザンビーク/2017年度3次隊・千葉県出身

PROFILE

東洋大学国際地域学部卒業後、同大大学院の「JICAボランティア派遣者用プログラム」を使って参加。協力隊派遣中の2年間と帰国後の1年間で博士前期課程で学んだのち、NGOを経て、現在、大学受験塾に勤務。

配属先：ナンブラ州モザンビーク島6月25日小学校

要請内容：6、7年生に対して実技を中心とした音楽と美術の授業の実施、校内音楽クラブの立ち上げと伝統音楽の演習・実演の支援

### CASE 2



しみずけい  
清水啓さん

ミャンマー/2017年度4次隊・埼玉県出身

PROFILE

大学卒業後、法務省矯正局に入省し、法務教官として少年院に7年間勤務。休職して協力隊に参加。帰国後は復職し、日本で犯罪を犯した受刑者の本国などへの移送事務や成人の矯正などに携わる。

配属先：マンダレー少年訓練学校

要請内容：レクリエーションの導入と充実に向けた取り組み、現地リソースを活用した充実した職業訓練の実施支援、配属先が地域を対象に実施する少年非行防止の啓発活動の内容を充実させるための支援

子どもや若者の健全な育成と自立を支援する「青少年活動」。

分野は、①困難を抱える青少年の生活や自立支援、②非行少年の更生・保護・社会復帰の支援、③家庭や学校(授業)では学ぶことができない体験学習、④進学や就職を有利にする知識や技術の指導、の大きく4つに分けられる。活動場所は、児童養護施設、難民キャンプ、少年鑑別所、学校、図書館、青少年活動団体などさまざま、具体的な活動も、音楽、美術といった情操教育、心のケア、課外活動、IT教育、職業教育など多岐にわたる。

共通して求められるのは、途上国の子どもや若者を支援したいという共感と熱意、そして、子どもや若者の心理を理解し、やる気を引き出して目標に導く力だ。

業を見る機会が得られ、生徒のやる気を高める方法を教わることでできたのだ。「生徒が注目してくれる現地のマクア語の言葉や歌、生徒一人ひとりが歌いながらリレーするゲームと、それらを授業のどの段階で使えば効果的なのかを学びました。自分の授業に取り入れると、初めてきちんと授業を進められている実感を持ってました。生徒も授業を楽しみにしてくれるようになっていきました」

マクア語でもコミュニケーションできるようにになると、生徒の理解度に配慮しながら授業を円滑に進められるようになった。授業以外にも、先輩隊員が教えていたソーラン節を中心とした「日本ダンス」クラブに加え、新たに「ピアニカ」「日本語」クラブも立ち上げて指導を行った。こうした努力の甲斐あって、島のコミュニティに溶け込むことができ、2年の活動を終えた。

#### CASE 2 訓練校の子どもたちへ 心を育て、社会復帰を目指す

清水啓さんの配属先は、犯罪を犯し裁判の判決を待つ少年、ストリートチルドレンなど、多種多様な18歳までの少年を収容するミャンマーの少年訓練



②「小さなハートプロジェクト」を通じて、埼玉県協力隊を育てる会、全国電力関連産業労働組合総連合から寄付を受け、設置できた浄水器  
③少年たちとセメントをこねる作業をする清水さん



①ソーラン節やエイサーなど日本の踊りを指導した「日本ダンス」クラブの生徒たちと細川さん。お祭りや島のイベントなどで毎月のように踊ることが生徒たちの楽しみになっていた

#### CASE 1 授業科目として 定着していないなかでの指導

細川由衣さんの任地・モザンビーク島は、全長3kmほどの小さな島だが、約1万4000人も島の島民が生活している。島内に3校ある小学校の一つが細川さんの配属先だ。細川さんはこの学校3代目の隊員で、要請は6、7年生の音楽と美術の授業などを行うことだった。

しかし、赴任してみると「体育の授業も行いたい、教えられる教員がいらないから、あなたが受け持て」と頼まれ、体育も担当することになった。

生徒は6年生が36人、7年生は52人もおり、一人で大勢を相手に、慣れないポルトガル語を使って初めて体育の授業をすることにしばらく苦労したが、細川さんが特に苦労したのは、音楽の授業コ

学校だ。清水さんが赴任した時点で、定員200名の施設に約330名の少年が収容されていた。

「定員オーバーの少年たちの数に対して、職員はたったの22人。教育活動を充実させるといって要請内容以前に、少年たちを収容するだけで精いっぱいという過酷な状況でした。教育活動も行わず、ほとんどの少年たちは一日中暇で、部屋のなかにおいて、食事以外の時間はボートしていました」

日本の少年院で働いていた清水さんは、超過勤務の多いほかの職員に負担をかけないよう、一人で行える教育活動に取り組みことにした。毎日行っていたのは体育で、筋力トレーニングやサッカーなどを指導した。

「外に出られないため、足腰が弱っている少年もいました。ケンカも絶えないため、少年たちの健康状態の改善とストレス発散を兼ねたのです」

さらに、老朽化した校舎を少年たち自身でセメントやペンキを使って補修する作業も指導した。「少年たちの生活環境を良くするために行いましたが、建築現場などで働いた経験のある子が得意げに作業してくれたりして、やってよかったことの一つです」

ントロールだった。屋外で行う体育は生徒が大声を出してもあまり問題にはならず、美術は生徒が絵や工作に夢中で取り組んでくれた。しかし、音楽の授業では、歌を歌ってもバラバラになったり、勝手に歌いだしたり、机をたたいたり。生徒たちを静かにさせるだけで授業時間が終わったり、あまりのうるささにたまりかねたほかのクラスの教員が、注意をしに教室に入ってくることもあった。

「子どもの頃からピアノを習い、学生時代は図工や日本語を教えるボランティアをしていたので、問題なく授業ができると思っていたのですが……」。音楽の授業の受け方を知らない生徒たちの指導に苦戦を強いられた。

しかし、転機は派遣5カ月を過ぎた頃に訪れた。教員養成学校で教える音楽隊員やモザンビーク人の音楽教師の授

そんなとき、校長から相談されたのが新しい浄水器の設置だった。既存のものでは量が追いつかず、近くの王宮のお堀からくんだ水を煮沸もせず飲み水に使っていたことから、下痢をする少年が多かったためだ。

そこで清水さんは「小さなハートプロジェクト」で資金を調達し、浄水器設置を進めた。また学校や業者と相談し、建設工事には少年たちに協力してもらうことにした。「土台の建設だけで半月かかると思っていたのですが、少年たちのおかげで、2週間ほどで設置小屋も完成し浄水器が使えるまでになりました」

ところが、浄水器が完成した頃にはミャンマーで法改正があり、訓練学校の収容人数は520人にふくれあがってしまった。新しい浄水器で賄えたのは収容人数の半分ほどだった。しかし、清水さんは言う。「浄水器の設置をきっかけに、マンダレー市の予算でもう一基が建設されることになりました。まだまだ環境は良いとはいえませんが、政府や学校に少しでも変化をもたらすことができたと感じます。おなかを壊したり、病気になる子どもの数が減っていったらいいと思います」。

#### 活動の基本

子どもや若者が抱える課題の背景を知り、やる気を引き出し目標に導いていく

\*「小さなハートプロジェクト」……(一社)協力隊を育てる会による、活動中の協力隊員と日本の支援者の方々をつなぎ、協力隊員の「地域貢献」を支援する募集型支援金プロジェクト

# みんなの教材づくり & アクティビティ

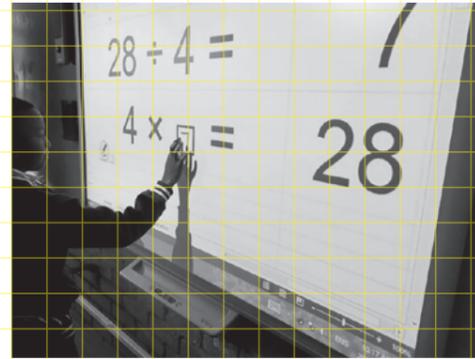
海外協力隊OVが派遣国の活動や生活で実践した、お役立ちアイデアをご紹介します。

## 間違いを減らす 算数教育の工夫

先月号に続いて、藤井さんに算数教育の工夫を教えてくださいました。藤井さんは南アフリカ共和国の首都に近いハイジューという地域の5つの小学校で、小学4年生から中学1年生の授業の改善のため、現地教員に指導を行いました。「南アフリカの算数の授業レベルは、アフリカの他国と比べても低いようでした。それはアパルトヘイト政策の影響で親も先生世代も十分な教育を受けられなかったからでもあります」(藤井さん)授業についてこれない生徒を少しでも減らすため、模型を使った学習と、簡単な間違いにくいことを重視した、かけ算の筆算方法をご紹介します。



**今月の先生**  
 ふじい ゆういち  
 藤井祐一さん  
 (SV/バヌアツ/理科教師/2010年度4次隊、SV/南アフリカ共和国/数学教育/2014年度4次隊、2018年度4次隊・山口県出身)  
 現在は公立高校の非常勤講師として、また週末はボランティアで、小学生や高校生に算数・数学を教えている。



電子ボードを使ったフラッシュカード。空欄に指で数字を書き入れることができます。かけ算と割り算が逆の関係であることを確認させる教材です。

## 間違いにくいかけ算の筆算方法

南アフリカでは3年生くらいから九九を学んでいきますが、2桁以上のかけ算には間違いやすいポイントがあります。位取りや繰り上がりに苦労することです。そこで、かけ算をしながら繰り上がりや位取りが意識できるよう徹底しました。日本ではあまり使われていませんが、欧米などで普及している格子かけ算という計算方法を導入。位取りを間違える、繰り上がりの数字を違う位置に書く、見落とすなどの失敗ありません。一度この方法に慣れると、生徒たちの計算力は目覚ましく上達しました。

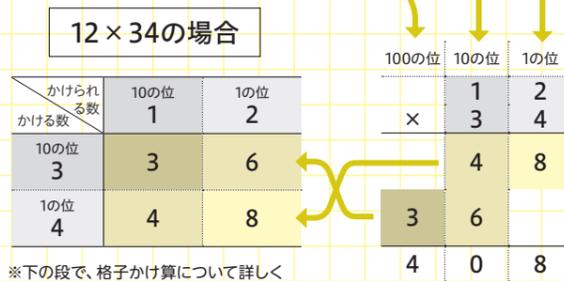
### 1の位・10の位を掛け合わせたときの位取りを理解

計算した答えを書く位置を間違ってしまうがちなので、縦書きの筆算の場合、計算した答えがどの位置にくるかを徹底しましょう。

1の位と1の位をかけたら、1の位に答えを書く

1の位と10の位をかけたら、10の位に答えを書く

10の位と10の位をかけたら、100の位に答えを書く



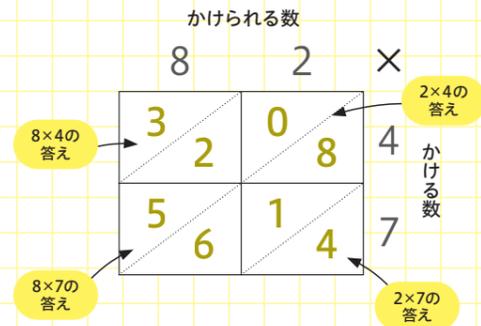
※下の段で、格子かけ算について詳しく説明します。

### 活動のヒント

かけ算の筆算は桁数が増えるほど間違いやすくなりますが、この方法だと、1桁同士のかけ算(九九)と足し算さえ確実にできれば、ほぼ正確に答えを出すことができます。

## 格子かけ算の筆算方法

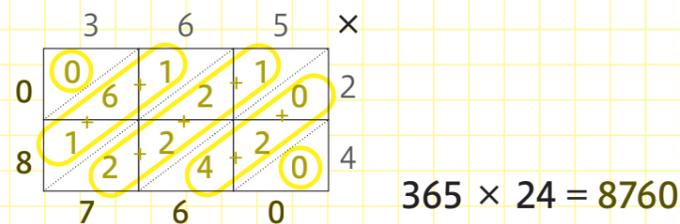
### 2桁 × 2桁のかけ算 82 × 47 の場合



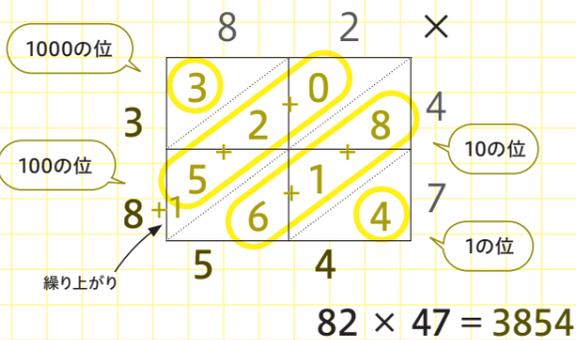
- かけられる数を横に、かける数を縦に、それぞれの桁数ごとに書いていきます。桁数に合わせたマス目に斜め線を書いて格子を作ります。2桁×2桁だと計4回かけ算をし、その答えを格子に書きます。10の位の値は左上部分に、1の位の値は右下部分に書くのがポイントです。

### 3桁 × 2桁のかけ算の場合

この方法だと、桁数が増えて大きな数字になっても、一つひとつの計算は九九なので簡単に計算できます。



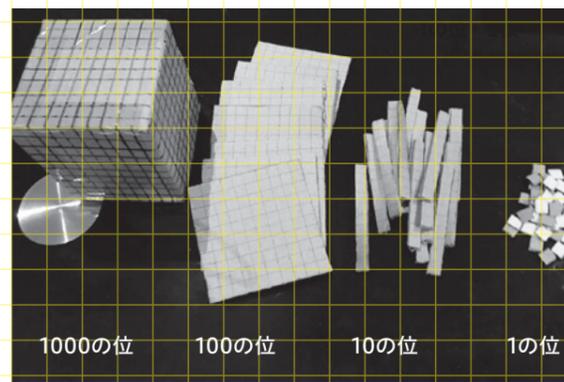
格子かけ算とは、格子のように見えるマスに数値を書いて進める筆算方法のことで「格子」を意味するlattice(ラティス)から「Lattice(ラティス) Method(メソッド)」とも呼ばれます。1桁×1桁のかけ算の答えをそのまま書いていけばよいので、とても楽に計算ができます。



- 斜めの対角線上にある数値を位ごとに足し、その和を格子の外に書きます。この段階で繰り上がりがあるときは記しておきます。この例の場合、格子の外に数字「3」「8」「5」「4」を並べた3854が答えです。

## 10進法を模型で理解

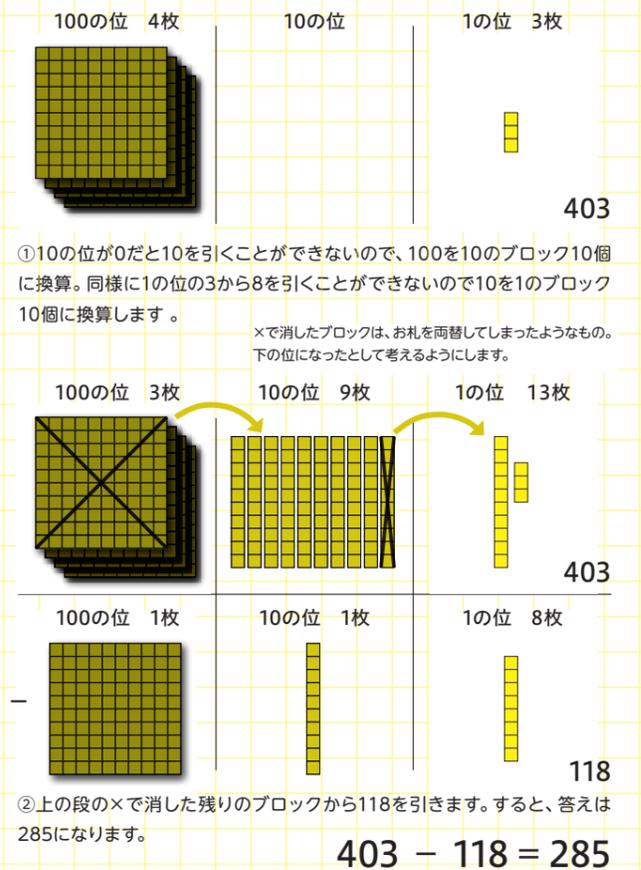
かけ算の繰り上がりや引き算の繰り下がりには10進法概念が欠かせません。身近な素材で模型を作り、10進法を理解する手助けにしました。



藤井さんが作った数の模型。数を視覚的にとらえることができる

材料: 段ボール  
 作り方: 正方形の同じ大きさのマス目で構成されるブロックを作製。それぞれ1マス、10マス、100マスの大きさにする。1000の位は、表面にマス目の見えるサイコロ状にする。

### 403 - 118 の場合



①10の位が0だと10を引くことができないので、100を10のブロック10個に換算。同様に1の位の3から8を引くことができないので10を1のブロック10個に換算します。

×で消したブロックは、お札を両替してしまったようなもの。下の位になったとして考えるようにします。

②上の段の×で消した残りのブロックから118を引きます。すると、答えは285になります。

403 - 118 = 285

# シュエカツ記

帰国後、内定までの  
就職活動の方法を聞きました。

思い描いたキャリア形成を  
この会社なら  
実現できると思いました



今月の先輩  
梅澤志穂さん  
Shiho Umezawa

ニジェール/看護師/2010年度2次隊、  
ウガンダ/看護師/2011年度8次隊・  
長野県出身

就職先：  
サラヤ株式会社



事業概要：家庭用および業務用洗浄剤・消毒剤・うがい薬などの衛生  
用品と薬液供給機器などの開発・製造・販売、食品衛生・  
環境衛生のコンサルティング、食品などの開発・製造・販売

梅澤志穂さんの略歴：  
1984年 長野県生まれ  
2007年 4月 大学卒業後、国立国際医療センター（現国立国際医療研究センター）に就職。集中治療室に看護師として勤務  
2010年10月 青年海外協力隊として赴任（ニジェール・ウガンダ）  
2012年10月 帰国。青年海外協力協会に看護師アルバイトとして勤務  
2013年 6月 サラヤ株式会社に入社 海外事業部（現海外事業本部）営業  
部所属

JICA海外協力隊ウェブサイト  
「帰国隊員の進路開拓についての相談受付」  
[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/counselor/](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/counselor/)

※進路相談の対象は、青年海外協力隊および日系社会青年海外協力隊の経験者  
のみとなります。 ※対応可能な日は希望進路の分野によって異なりますので、あ  
らかじめ電話またはメールでのご連絡をお願いします。



「大学を卒業したら、まずはボラン  
ティアとして海外に行き、次に大学院  
で国際保健医療を勉強し、ゆくゆくは  
国際機関などでマクロな視野で国際保  
健の仕事に携わりたい」  
学生時代にキャリア形成をそう描い  
ていた梅澤さん。大学卒業後に看護師  
として集中治療室に勤務することを選  
んだのも、協力隊に参加しやすいと考  
えたからだという。帰国後は、次の目  
標に向けて大学院留学の準備を進めて  
いた。しかし、次に梅澤さんが選んだ  
のは、大学院ではなく民間企業への就  
職だった。

サラヤ株式会社との出会いは、2番

目の派遣国のウガンダだった。同社は  
アルコール手指消毒剤の生産・販売に  
向け、JICAのBOPビジネス連携  
促進協力準備調査(※)を活用した調査  
を進めていた。調査内容は、病院にア  
ルコール手指消毒剤を配布し使用実態  
を調べるというもので、その調査に隊  
員が協力していた。そして、梅澤さん  
の配属先も調査の対象だった。

「ウガンダの病院では、清潔な水も  
せっけんも不足していますが、アル  
コール手指消毒剤があれば手指衛生を  
保てます。手指を消毒する回数が増え  
た調査結果から、消毒剤導入の効果は  
明らかでした」  
帰国後、梅澤さんはこの結果を日本  
環境感染学会で発表し、それが縁で、  
サラヤに入社することになった。

「世界で事業展開しているサラヤであ  
れば、マクロの視野で国際保健の仕事  
に関われると思いました。大学院には、  
いつでも留学できますから」

実は、入社3年後に1年間休職して  
大学院に留学し、国際保健医療を勉強  
するという目標も実現している。  
「思い描いていたキャリア形成をほぼ  
実現できたのは、手法にこだわらず柔  
軟に考えたことがよかったのだと思  
います。今は次の目標をどこに設定しよ  
うか、考えているところです」

## 現在の仕事

海外事業本部で医療衛生を担当しています。海外拠点が  
30社以上あるので、その営業支援や商品開発、プロジェ  
クトによっては現地スタッフに感染対策の教育を行うこと  
もあります。対象は、途上国だけでなく、欧米やアジアなど  
全世界です。さらに、海外の展示会や国際学会への出展、  
セミナーの開催などにも携わっています。新型コロナウイル  
ス感染症の流行拡大では、アルコール手指消毒剤など、  
感染対策用品を必要とする人が世界中にいることを改めて  
確認しました。これからも、必要とする人たちに、必要な  
商品を、可能な限り提供していけるよう、取り組んでいき  
たいと思っています。



海外の展示会で、サラヤグローバルメンバーと

## 先輩へメッセージ

就職活動で協力隊での経験を伝えたいなら、目に見  
える形で実績を伝えたほうが説得力はあります。私  
は学会で発表するというやり方を選びましたが、ブ  
ログや雑誌への投稿などでもよいと思います。私の  
場合、学会の発表を会社の担当者が聞いていたので  
運もよかったのですが、その運を引き寄せるのも自  
分の努力だと思っています。“こんな仕事をしたい”  
という大きな夢を持ち、諦めずにいたら、そこまでの  
道のりは違って夢はかなえられると思います。

## 2 帰国～大学院留学の準備 2012年10月～

青年海外協力協会で見習いとしてアルバイトをしながら、英語  
学校に通うなど、大学院留学のための準備をしていました。そ  
の間、協力隊での経験を形として残したいと思い、調査で得た  
アルコール手指消毒剤による感染対策と手指衛生行動の変化を、  
日本環境感染学会で発表しました。その発表会に、ウガン  
ダの活動を通じて知り合ったサラヤの担当者が出席していたこ  
とから、同社でも同じ内容を発表することになり、そこで同社  
への入社を誘われました。

## 3 書類提出

提出書類 ▶ 履歴書、志望動機書

志望動機には、医療現場や協力隊での経験を生かして、海外の  
ビジネスに挑戦したいと思っていることを書きました。特に、  
公的機関ではなく民間企業を選んだ理由として、途上国でビ  
ジネスを進めることで、援助を待つだけでなく、主体的に仕  
事をし、生計を立てる人々を増やす一翼を担いたいと思  
い、記憶しています。

## 4 面接

ほぼ入社は確定していましたが、2回の面接がありました。入社  
後、最初の1年間は、海外事業本部からメディカル事業本部に  
出向し、国内向けの事業に携わることが決まっていたため、1回  
目の面接では同事業部の本部長、副本部長と会い、臨床経験  
や協力隊での活動を伝えると共に、同事業部で働く意がある  
のかを確認されました。2回目の面接は、海外事業本部長、副  
本部長と、顔合わせとなりました。

2013年6月 入社

※民間連携により、日本企業のBOPビジネス（貧困層が抱える課題の解決に貢献するビジネス）を支援。  
2017年に「途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査」に改称。

# 派遣から始まる未来



進学、非営利団体入職や起業の道を選んだ先輩隊員

## ▶ NPO法人TICO 設立

吉田 修さん Osamu Yoshida  
マラウイ/医師/1988年度3次隊・徳島県出身

## 徳島の診療所を拠点に、ザンビアの医療と農村の改善に協力する



●マラウイの小児病棟。医療品、注射器などは慢性的に不足している。「消毒液やガーゼがないこともあり」 ●TICOによるザンビア大学病院心臓血管外科チーム養成事業。豚の心臓で手術の練習中 ●さくら診療所の右手スタッフと吉田修さん(右から2人目)。スタッフは70人ほどいて、国際協力と両立するために支え合って診療所を運営している

### 吉田さんの歩み

徳島県出身。宮崎医科大学卒業後、徳島大学第2外科に勤務。1989年、協力隊としてマラウイへ。



大学病院の指導教授からも「行ってこい。でも、帰ってこいよ」と言ってもらえました。先進国への留学は奨励されても、途上国支援には教授の理解を得られないこともあります。私は恵まれていました。

1992年よりNPO法人AMDAの緊急人道支援に参加。



ルワンダ内戦難民やモザンビーク紛争後の帰還難民支援などに携わりました。アフリカでは戦争が終わったあとも危険なものです。元兵士が武器を持ったまま街に帰ってきてギャングになってしまうことも少なくありません。ゾッとする光景をたくさん見ました。

1993年、徳島で国際協力を考える会/TICOを設立。



帰国後の2年間は国内の病院で働いていましたが、「アフリカに戻りたいな」という気持ちが消えませんでした。

1999年、徳島県吉野川市にさくら診療所を開設。



私の父が開業医として診療所をやっていた場所です。私は当初、開業医ではなく心臓外科医を目指していたのですが、AMDAに参加して、国際協力を継続したい医師たちと開業しようと考えが変わりました。

2004年、TICOをNPO法人化。



現在、ザンビアへの心臓外科技術移転などをしつつ、農村への支援も引き続き行っています。世界的には気候変動の改善も急務です。ザンビアでも農地や燃料確保のために森林破壊が進んでしまっています。持続可能な農業や養殖を試行錯誤しているところです。

肌の色は日本人と違うけれど、おなかの中にある臓器はまったく同じ。吉田修さんはこの当たり前の事実を目の当たりにした。今から30年以上前、マラウイの病院で外科手術(※)に臨んだときの出来事だ。1988年、大学病院所属の臨床医として6年間を過ごした。「何となくカッコいいかな」と軽い理由で青年海外協力隊に応募したと振り返る。外科医として活動できるなら世界中どこでも行くと明言。結果的に派遣国がマラウイだったにすぎなかった。しかし、この地での2年間で吉田さんの人生を決定づけた。

「私が主に働いたザンバゼネラルホスピタルは、300床の病棟に900人もの患者が入院している状況でした。一つのベッドを2人で共有したり床にマットを敷いたりして寝ているのです。外科医は私しかいませんでした」

病名は鼠径ヘルニア(脱腸)や腹膜炎など、日本でもよく知られたものがほとんどだった。しかし、現地の貧しい人たちは祈祷に頼ることが多く、病院までの交通費を賄うのも難しい。「脱腸は放置すると腐ってしまします。ずっと我慢して何十キロも離れた地域からバスに乗って来たりと、日本では考えられないことばかりでした」

病院のスタッフから逆に教えられたこともある。輸血する血液が足りないケースが多いため、手術中に患者のおなかにたまった血を再利用する離れ業

師をサポートしつつ、主にザンビアで農村の環境を改善するさまざまな事業を行ってきた。栄養・衛生教室、妊産婦ケア、菜園づくり、小規模ローン、家畜の疫病予防などだ。

「TICOが支援終了後も多くの村で活動はまだ続いていると思います。でも、ボランティアたちが毎月のミーティングのためにヘルスポスト(医師のいない診療所)に集まるのも徒歩数時間、無報酬。TICOがいるときは昼食や筆記用具、時々ユニホームの支給などをやっていました。何らかの経済活動とリンクさせてモチベーションを維持しないと続かないと感じます」

医療分野のほうは心臓外科に注力している。先天性の心臓奇形を持って生まれてくる子どもはどの国にもいる。

しかし、ザンビアでは手術ができる医師がいないために次々に亡くなっている。TICOはザンビア人医師でも手術ができるように技術指導をしている。こうした活動は日本国内でも助け合う基盤があればこそ継続可能だ。

「私が院長を務めるさくら診療所には現在4名の医師がいてワークショップアをしていきます。途上国支援のために誰かが抜けたら、その穴はほかの人が何も言わずに埋める、という体制です」

吉田さんによれば、国際協力を志す日本の医師や看護師は決して少なくない。そして、ザンビアに行けば数百人が常に手術を待っている。若手が大いに経験を積める環境だ。双方のニーズをマッチさせるために、TICOと吉田さんは今も奮闘している。

※1 AMDA…多国籍医師団を結成して、災害や紛争発生時に医療・保険衛生分野を中心に緊急人道支援活動を展開しているNPO法人。

※2 ルサカ市プライマリーヘルスケアプロジェクト…ザンビアの首都ルサカ市およびその周辺でJICAが行っていた技術協力。子どもの成長をモニタリングする活動と、住民参加の環境衛生改善活動を組み合わせた支援を行った。

あの場所、  
地球の、  
あの日、  
あの場所で。

任地の思い出を聞きました。

## ボリビア人が 運動したくなる 声かけは？

南アメリカ大陸のほぼ真ん中にあるボリビア多民族国。広大な国土にはアンデス高地や熱帯雨林、サバンナなどが広がり、自然環境に恵まれた国としても知られている。

この国では、人々にとって食事が最大の楽しみ。おやつを含めて、1日5食を取ることが普通なのだ。それもあってか、肥満気味の人や、深刻な生活習慣病から大病に至り、後



Illustration = 牧野良幸 Text = 大竹幸乃

遺症を持つ人も多い。

私の活動は、健康に生活することがいかに大切かを保健センターで地域の人たちに伝えることだった。しかし、ボリビアの人々には運動の習慣がほとんどなく、皆口々に、「わざわざ運動するなんて面倒くさい」「揚げ物とビールの組み合わせが最高!」「今が幸せだから、このままでよい!」などと言出し、全く響かない……。

そこで私は考えた。それなら、彼らを運動する気にさせよう、と。

ある日、さりげなさを装いながら、「もっとキレイになりませんか?」と彼らに声をかけてみたところ、皆の目がキラキラ輝いている。そう。南米の人たちは美意識が高い人が多く、いつまでも「キレイでいたい!」「モテたい!!」と思っている。当初は参加者が少なく、閑散としていた運動教室が、一気ににぎわったのだった。

菊池真美子さん  
ボリビア/理学療法士  
2013年度2次隊・岩手県出身  
岩手県国際協力推進員



算数の学習アプリを使って学ぶ子どもたち

待ってます、あなたを!  
各界からのエール  
From  
公益財団法人 CIESF



## 国境なき教師団 世界レベルの教育者育成を目指して

公益財団法人CIESF(以下、シーセフ)は、2008年に一般財団法人カンボジア国際教育支援基金として設立しました。真の教育こそが人生を豊かにし、国の発展のためには不可欠であるという思いから、国際的な非営利団体として、カンボジアで一貫校の運営や教師の質の向上を目指す教員養成、産業人材育成、起業家育成などに力を入れています。

シーセフでは幼稚園から中学部までの一貫校「CIESF Leaders Academy」を運営しています。中学部を卒業後、高校・大学で日本に留学する機会も創出することで、日系企業で活躍したり、起業して国の発展に寄与できる人材の育成をめざしています。また、現地の教員養成校の教官の指導のために日本から定年退職後のベテラン教師を派遣する事業も行っていました。コロナ禍のため今までの教師派遣のやり方を変更し、新たなプロジェクトを立ち上げています。

シーセフの日本事務局にはJICA海外協力隊のOVが数名いますし、カンボジアで先生を募集するとOVの応募も少なくありません。教師派遣事業を立ち上げた当時、協力隊OVから現地情報の提供や、派遣予定の先生たちにレクチャーしてもらおうというつながりもありました。協力隊の皆さんの途上国を支援したい、海外で活動したいという熱い思いを、ぜひ私たちと一緒にこれからの社会のなかでも生かしていただきたいと思います。また、適応力と行動力を発揮してさまざまなことにチャレンジし続けてくれることを願っています。



戸田陽子さん  
公益財団法人CIESF(シーセフ)理事・事務局長  
とだようこ ● 広島県出身。大学卒業後、アパレルメーカーに勤務。その後、派遣会社を通じて外資系証券会社に勤務。2008年のシーセフ設立時より携わり、現在はカンボジアの一貫校事業と教員養成の新しいプロジェクトに奮闘中。

# INFORMATION

JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ

## NEWS

### 国際協力機構(JICA)理事長交代について

2022年4月1日付で、北岡伸一前理事長が任期満了のため退任し、後任として田中明彦理事長が就任しました。田中理事長のあいさつは右記に公開されています。



**田中明彦理事長 略歴**  
1977年3月東京大学教養学部教養学科国際関係論分科卒業、81年9月マサチューセッツ工科大学政治学部大学院修了 (Ph.D. 取得)。東京大学理事・副学長、政策研究大学院大学長などを歴任。JICA理事長は2012年4月～15年9月に次いで2度目。



退任記者会見を行う北岡伸一元理事長。会見では、2015年10月の就任当時から現在までの6年半を振り返った。(2022年3月29日、JICA本部)

## NEWS

### JICA海外協力隊の2022年春募集を実施

JICA海外協力隊 (長期派遣) の2022年春募集を2022年5月20日～6月30日で実施します。募集要項は5月10日に公開する予定です。新型コロナウイルスについては依然として世界的に予断を許さない感染状況が続いています。そうしたなか、協力隊員の派遣国・派遣地は生活と活動の環境が特に脆弱であることから、渡航の可能性については、JICAの在外拠点の事業実施体制や現地の状況を踏まえつつ、国および要請ごとに慎重に検討を進めていく予定です。



詳細はこちらから



## PROGRAM

### YouTube・JICA-Net Libraryで 隊員活動のヒント・課題解決の一案となる 動画を公開中

青年海外協力隊事務局 課題業務・選考課が制作した課題別オンデマンド動画のうち、特に汎用性が高いと思われるコンテンツは、JICA海外協力隊派遣前課題別プログラムの一環として、YouTube内のJICA-Net Libraryで公開されています。隊員活動のヒント・課題解決のスキルの一つとして、自己学習できる内容です。ぜひご利用ください。

### JICA-Net Libraryで公開中の動画の一例

- ▶ **フォトランゲージ** (三好直子技術顧問)
- ▶ **環境教育の手づくり教材について** (諏訪正和 エジプト/環境教育/2015年度2次隊)



- ▶ **環境教育から学ぶ10のファシリテーションスキル** (加藤超大 ヨルダン/環境教育/2012年度1次隊)



- パート1 プログラムデザイン
- パート2 活動編
- パート3 評価・改善と道具編

# クロスロード [ 2022年5月号 ]

第58巻第4号 通巻676号  
発行日 2022(令和4)年5月1日

編集・発行：独立行政法人国際協力機構  
青年海外協力隊事務局  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル

制作協力：一般社団法人協力隊を育てる会『クロスロード』編集室  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-7 昇龍館ビル2階  
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン：(株)AND  
印刷・製本：弘報印刷(株) 校正：佐藤智也

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください。  
アイデアも大募集中です。

今月号の『クロスロード』はいかがでしたか。ぜひご意見やご感想を編集室のメールにお寄せください。「こんな記事があれば活動先で役立つのに」「こんな記事なら読みたい」といったご要望やアイデアも随時募集しています。  
『クロスロード』編集室

crossroads@sojocv.or.jp



## 編集後記

JICA事務局：「この職種の先輩隊員に注目！～現場で見つけた仕事図鑑」の老朽化した校舎の少年たちの補修作業について、目的の生活環境を良くするだけでなく、自分たちで補修したことで大切に扱うことにもつながると思えました。(脇田雄気)

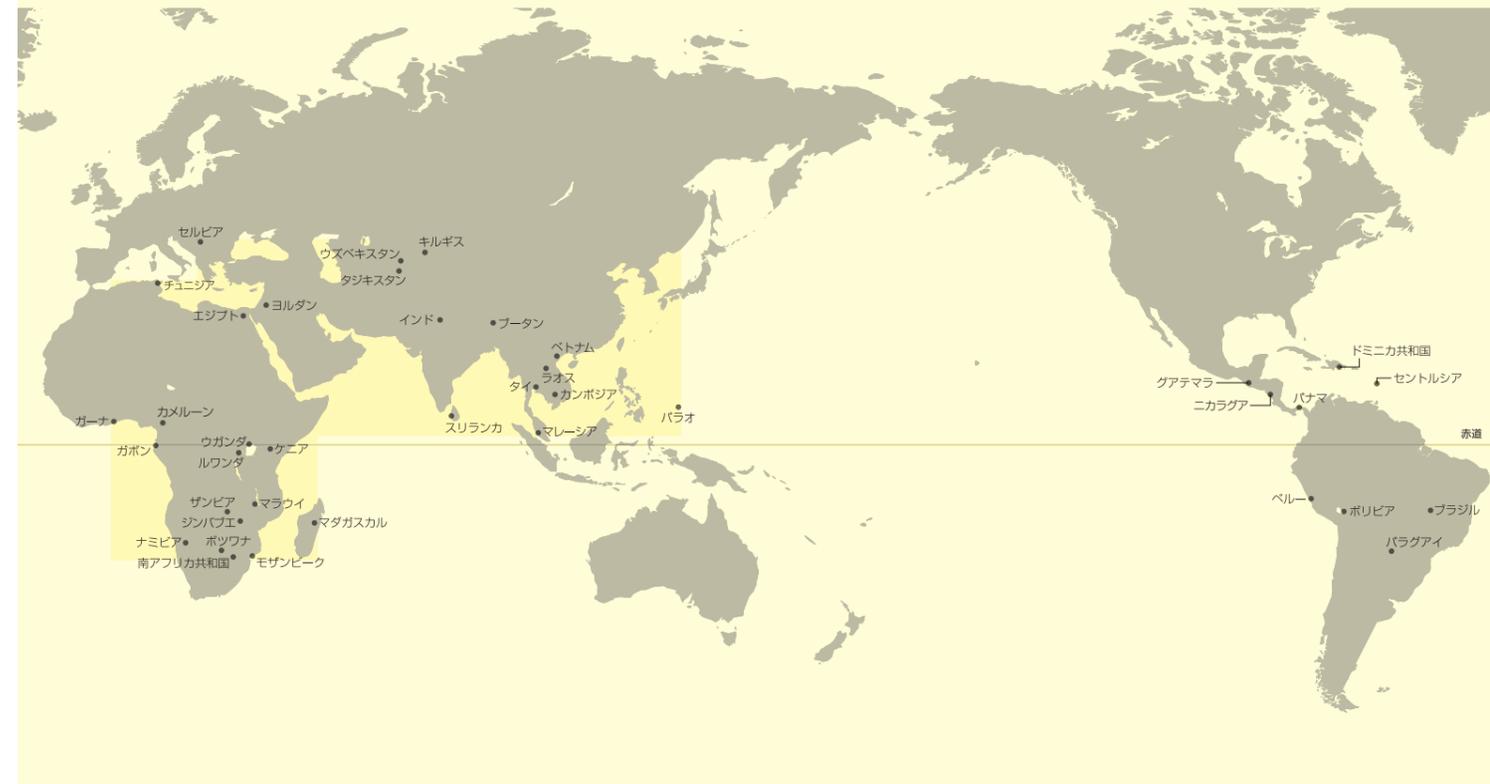
クロスロード編集室：「派遣から始まる未来」でお話を伺ったNPO法人TICOの吉田修さん。3月初旬に原稿確認を依頼したところ、NPO法人AMDと合同医療チームを結成し、ウクライナ難民支援のため出国するところでした。その行動力に畏敬の念を覚えました。(干川美奈子)

●本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。 ●本誌に掲載されている記事等の内容は、協力隊員(OV含む)の個人的見解であり、JICAの公式見解を示すものではありません。

# JICA海外協力隊派遣現況

(2022年3月末現在)

現在の派遣国数  
39カ国



■ アフリカ地域			■ アジア地域			■ 大洋州地域			■ 中南米地域				
国名	一般	シニア	国名	一般	シニア	国名	一般	シニア	国名	一般	シニア	日系一般	日系シニア
ウガンダ	23		インド	2		パラオ	5	2	グアテマラ	2			
ガーナ	11		ウズベキスタン	3					セントルシア	2			
ガボン	12	2	カンボジア	18					ドミニカ共和国	5		4	
カメルーン	13		キルギス	2					ニカラグア	2	1		
ケニア	26		スリランカ	4					パナマ		1		
ザンビア	1		タイ	10	1				パラグアイ	6	1		
ジンバブエ	6		タジキスタン		1				ブラジル				3
ナミビア	9		ブータン	3	3				ペルー	1	1		
ボツワナ	1		ベトナム	16					ボリビア	1			
マダガスカル	12		マレーシア	7	4								
マラウイ	19		ラオス	14	4								
南アフリカ共和国	3												
モザンビーク	8	2											
ルワンダ	22												

■ 合計	一般	シニア	日系一般	日系シニア	小計
派遣中 (男性/女性)	305 (134/171)	25 (16/9)	7 (2/5)	0	337 (152/185)
累計 (男性/女性)	46,098 (24,445/21,653)	6,578 (5,314/1,264)	1,549 (599/950)	547 (252/295)	54,772 (30,610/24,162)

一般 = 青年海外協力隊/海外協力隊 シニア = シニア海外協力隊 日系一般 = 日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊 日系シニア = 日系社会シニア海外協力隊

# 隊員めし

現地で作った日本食、  
日本で作る現地めし

タイ



いけだ みさ  
池田美沙さん

タイ/栄養士/2018年度3次隊・福岡県出身  
日本の病院で管理栄養士として勤務後、協力隊に参加。タイ東北部のナムボン郡にある病院へ栄養士隊員として赴任し、入院患者や病院スタッフの給食を作ったり、患者や家族への栄養指導を行った。帰国後は、日本で働く外国人を支援する会社に勤務中。



※池田さんの活動中のレポートは、「JICA海外協力隊の地球日記」でも公開中です  
見たい! 食べたい!! タイ日記  
https://world-diary.jica.go.jp/ikedamisako/

現地で作った  
日本食

## 「どら焼き」

タイでも浸透している日本の人気アニメの登場人物の好物とあって、「これ、あのキャラクターが食べているおやつでしょ!」と、興味を持ってくれました。あんこだけ、バター入りと両方作ったところ、バター入りがより好評でした。

### ●材料(約8個)

皮		あんこ	
ホットケーキミックス粉 (パンケーキミックス粉)	150g	小豆(乾燥)	80g
牛乳	100cc	砂糖	65g
はちみつ	大さじ1	塩	少々
卵	1個	水	適量
植物油	適量	バター (有塩・無塩どちらでも可)	適量

<池田さんからのアドバイス>  
ホットケーキミックス粉を使うと、あらかじめ材料が混ぜられているので砂糖や小麦粉をそろえる必要もなく、焼くときにも生地が膨らみやすいので、失敗が少ないように思います。はちみつを入れることで、生地がしっとりし香りも良くなります。あんこは手軽に作りたいた方はきあいを使うといいと思います。

### ●レシピ

- ①小豆を洗い、浮いてくる小豆や虫食いの小豆は取り除く
  - ②①の小豆を鍋に入れ、小豆が浸かる程度の水を入れ、強火にかけます。煮立って4-5分したら、水を1カップを加える
  - ③再び煮立ったら煮汁を捨て、②と同じ程度の水を入れて強火で煮て、煮立ったら弱火でアクをすくいながら豆が柔らかくなるまで煮る
  - ④煮汁ごとミキサーにかける
  - ⑤③の鍋に戻し、汁気がなくなる少し手前で砂糖を加え混ぜる。お好みで塩を加えても良い
  - ⑥冷ましておく
  - ⑦ボウルに卵、牛乳、はちみつを加えよく混ぜ、さらにホットケーキミックス粉を加えて、よく混ぜる
  - ⑧フライパンに植物油を引き、弱火で⑦の生地を焼き、両面焼く(テフロン)
  - ⑨⑧で焼いた皮が冷えたら、皮→あんこ→バター→あんこ→皮の順で、あんこを挟む
- 加工などくっつかないフライパンの場合は、植物油は必要なし)

<編集室で再現した感想>  
難易度 ★★★★★  
達成感 ★★★★★

生地を焼く際、1回目は油がフライパンになじんでいない状態(温度が上がっていない状態)で生地を入れてしまったため表面が均一の色で焼けなかったのですが、2回目からは均一の色で焼けるようになり、どら焼き感が増しました。生地がふわっとするので、薄めに焼いてもいいと思います。ホットケーキミックス粉を使っているせいもあってか、バターを入れるとぐっとコクが出ました。

日本で作る  
現地めし

## 「カオマンガイ」

病院でも提供した人気メニューです。鶏肉は病院ではほぐして提供しました。タレにみそを入れるのは、任地で使用していた大豆ソースの味を再現したかったためですが、みそを入れることでタレのうま味がアップします。鶏肉のゆで汁が残ったら、大根や白菜、ネギなど好きな野菜を加え、塩などで味を調整してスープとして楽しんでください。このメニューとは関係ありませんが、タイ東北部ではアリヤセミといった昆虫を食べる文化があります。厨房のなかに入ってきたカブトムシを見た同僚栄養士から、「ミサ! それ、食べられるから早く捕まえて!!」と言われたことが記憶に残っています。

### ●材料(2人分)

鶏肉(むね、もも、どちらでも)	200g	塩	ひとつまみ
米(日本米で可)	1合	きゅうり	1本
しょうが	輪切り3切れ	※タレ:唐辛子・しょうが・にんにく・みそ・ごま油・砂糖・酢(あればナンプラー)	適量

### ●レシピ

- ①鍋に鶏肉がしっかり浸るくらいの水を入れてお湯を沸かし、鶏肉を入れ火が通るまでゆでる
- ②①の鍋から鶏肉を取り出して冷ます。ゆで汁はとっておく
- ③洗ったお米を炊飯器に入れ、お米の量に合わせてとっておいたゆで汁を加え、塩0.5g(ひとつまみ)と輪切りにした生姜を加える。炊飯器のスイッチを入れる。タレ用に唐辛子・しょうが・にんにくをみじん切りにして、みそ・ごま油・砂糖・酢を入れて好みの味に調整する
- ④ご飯を炊いている間に、冷ましておいた鶏肉を切る
- ⑤ご飯が炊き上がったたら、盛り付けて、鶏肉、輪切りにしたきゅうりを添えて、タレをかけて完成!

<編集室で再現した感想>  
難易度 ★★★★★  
達成感 ★★★★★

ご飯にも鶏の出汁がきいていて、ボリュームもあっておいしかったです。タレはにんにくやしょうががきいていて、みそが入っているので添えたいきゅうりにも合うと思いました。

<池田さんからのアドバイス>  
①で鶏肉の臭みが気になる方はお酒を少量入れてください。  
②で水の代わりにゆで汁を使ってお米を炊くことで、鶏出汁がきいたご飯が手軽にできます。硬く炊いたお米が好きの方は、ゆで汁の量を分量よりやや少なめにしてください。  
④の鶏肉は、病院では食べやすいようにカットではなくほぐして提供しました。



カブトムシを捕まえた同僚



ふわふわ生地の  
「どら焼き」

見た目からして食欲そそる  
「カオマンガイ」



作ったどら焼きを同僚に試食してもらった。「いい香り」と好評だった



日本文化紹介を実施した際、同僚たちに巻きずしを教えた



1年で1カ月間だけ市場に出回る高級食材、アリの卵



中華人民共和国

①2019年秋にオルドスを訪問したときの坂本さん(写真前列左から3番目)と日中のスタッフたち。植林が終わり、みんなすがすがしい笑顔をしている ②最初の植林から14年で緑が広がり、一面の砂漠だった土地が見違えるようになった

## 内モンゴルの塩の売り上げの一部で 植樹を進め、オルドスの砂漠化を食い止めたい

中国の内陸部にある内モンゴル自治区のオルドスは、一年中風が強く乾燥した土地だ。春には猛烈な砂嵐が起り、舞上がる砂は日本にまで届き、黄砂の要因になる。1991年から3年間、坂本毅さんはこの地で高校生たちに日本語を教えた。

「内モンゴルというと大草原のイメージがありますが、オルドスは過放牧や過開墾によって草原が退化し、砂漠化の最前線でした。家をもみ込んでしまうほどの砂嵐に遭うなど、砂漠化の恐怖を体感し、それを食い止めることが課題のように感じました」と、坂本さんは話す。

帰国から9年後の2003年夏、オルドスで開かれた同窓会に参加すると、かつての教え子たちは立派に成長していた。そこで改めて砂漠化の現状を知った坂本さんは、「オルドスを愛する一個人として援助や助成に頼らず砂漠化を食い止めたい」と決心する。04年10月、売り上げの10%をオルド

スの砂漠緑化に充てる会社バンベンを立ち上げた。「看板商品は内モンゴルの特産品である湖生まれの塩です。太古は一面の海が広がっていた地で、長い年月を経てそれが塩湖や岩塩の地層となったものです」。

これらの売り上げから約25万円を寄付し、05年春にオルドスで初めての植樹を行うことになった。すると「たった一人で緑化活動に取り組む日本人」と、坂本さんのことがニュースで話題になり、地元政府も資金を出してくれた。以降毎年、日中共同で植林活動を行い、約700ヘクタールの砂漠緑化が完了している。

「今は面積を増やすより、植樹から得られる果実や種の販売で現地の人々の生活を向上させていきたいと思っています。緑地が広がると現地の人の収入が上がり、そこから収穫したものを私が売ることによって事業を拡大できます。その連鎖で持続的に砂漠化を止められる、そう信じています」



＼ うちのこだわり ＼

# OB・OG ショップ

— 海外編 —



モンゴルでは、「命の塩」と呼ばれ大切にされてきた、多くのミネラルやうま味に富んだ塩。天日湖塩と岩塩をブレンドした「バンベンの木になる塩」1点の購入で内モンゴル・オルドスの砂漠に1本植樹ができる。

### SHOP DATA

#### バンベン

経営者：坂本毅さん  
(中華人民共和国・内モンゴル自治区/  
日本語教師 / 1991年度1次隊・福岡県出身)  
ウェブショップ <http://banben.jp>



Text = 村重貞紀 写真提供 = バンベン



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

